

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和7年7月31日※1
(前回公表年月日:令和5年7月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																												
専門学校 文化デザイナー学院		昭和51年4月1日		荒井 真次		〒310-0026 茨城県水戸市泉町1丁目3番22号 (電話) 029-303-1010																												
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																												
学校法人リリー文化学園		昭和51年1月22日		理事長 大久保博之		〒310-0021 茨城県水戸市南町2丁目3番14号 (電話) 029-224-4820																												
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																											
文化・教養	産業デザイン専門課程		建築設計デザイン学科			平成20年文部科学省 告示第12号	—																											
学科の目的	本学科は、建築・インテリア業界においてインテリアデザイナーとして就職並びに活躍できる人材の育成を目指し、設計からインテリアに 関しての専門教育並びに、職種に必要な二級建築士やインテリアコーディネーターの資格取得を目的とする。																																	
認定年月日	平成26年3月31日																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義		演習	実習	実験	実技																										
	3年 昼間	2895時間	1110時間		1740時間	165時間	0時間	0時間																										
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数	総教員数																									
90人		30人		0人		4人		19人	23人																									
学期制度			■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価			■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績基準は、80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、59点以下をD(不合格)とする。 成績評価は、規定課題作品、学期末試験、レポートなどの部分評価を総合して評価する。																									
長期休み			■学年始:4月4日 ■夏 季:7月25日～8月20日 ■冬 季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月16日			卒業・進級 条件			■卒業条件 教育指導計画にしたがって所定の全授業科目を修得し、単位判定会議で卒業が認められた者で所定の期日までに生徒納付金を納付していること ■進級条件 教育指導計画にしたがって当該学年の必須授業科目を5割以上修得し所定の全授業科目を修得し、単位判定会議で進級が認められた者で所定の期日までに生徒納付金を納付していること																									
学修支援等			■クラス担任制: 無 ■個別相談・指導等の対応 専任教員が担当する授業のキャリアデザインでは、毎回同じ者が担当する。 また、試験・課題・出欠・就職・学校生活についてはそれぞれの担当がいる。 長期欠席者への指導は電話確認、保護者への連絡、面談など。			課外活動			■課外活動の種類 水戸デザインプロジェクト、日本建築学会関東支部茨城支所 環境セミナー、ワークショップ(常陸太田市) ■サークル活動: 無																									
就職等の 状況※2			■主な就職先・業界等(令和5年度卒業生) 設計・デザイン事務所/ハウジング/店舗設計/家具インテリア販売/建設業/CAD制作 ■就職指導内容 業界人を囲む会・卒業生を囲む会・就職ガイダンス・企業見 学・模擬面接 ■卒業者数 12 人 ■就職希望者数 12 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和6 年度卒業者に関する 令和7年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3			■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>商業施設士資格試験</td><td>③</td><td>11人</td><td>9人</td></tr><tr><td>コンクリート製品検定</td><td>③</td><td>12人</td><td>11人</td></tr><tr><td>インテリアコーディネーター</td><td>③</td><td>12人</td><td>1人</td></tr><tr><td>福祉住環境コーディネーター3級</td><td>③</td><td>12人</td><td>0人</td></tr><tr><td>AFT色彩検定3級</td><td>③</td><td>12人</td><td>10人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 茨城学生建築展奨励賞、茨城学生建築展茨城新聞社賞、茨城県建築士会賞、茨城県建築士事務所協会賞、日本建築家協会関東甲信越支部茨城地域会賞、茨城県建設業協会賞、茨城インテリアコーディネーター協会賞、常陸太田市長賞		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	商業施設士資格試験	③	11人	9人	コンクリート製品検定	③	12人	11人	インテリアコーディネーター	③	12人	1人	福祉住環境コーディネーター3級	③	12人	0人	AFT色彩検定3級	③	12人	10人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																															
商業施設士資格試験	③	11人	9人																															
コンクリート製品検定	③	12人	11人																															
インテリアコーディネーター	③	12人	1人																															
福祉住環境コーディネーター3級	③	12人	0人																															
AFT色彩検定3級	③	12人	10人																															
中途退学 の現状			■中途退学者 4 名 令和6年4月1日時点において、在学者30名 (令和6年4月1日入学者を含む) 令和7年3月31日時点において、在学者26名 (令和7年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 ①修学意欲低下 ②心神耗弱 ③経済的問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 対策として、欠席率の段階によって教職員による面談をしている。1段階指導として担当の面接、2段階指導として主任以上の職員による面接を実施している。また、課題の提出状況も把握し適切に指導出来るように、全ての規定課題(提出義務課題)については教務提出としている。経済的問題に対しても細かく配慮し、保護者との面談を行っている。奨学金や国の教育ローンなどを利用することによる資金計画について相談し、就学困難を回避している。また、昨今増えつつある精神的な病気についても出来る限り配慮することとし、安心して就学出来るように細かい面接等をしている。これらの細部にわたる「学生に対する配慮」が退学率を低くしており、「愛情をもって接する」という一人ひとりのスタッフのスピリッツにより支えられている。			■中退率 13.3 %																												
経済的支援 制度			■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 「AO入学」・・・学力だけでなく、本校の掲げる学生像(アドミッションポリシー)と照らし合わせ、好きなことを学び職業に活かしたいという熱意や職業理解などを作文や面接で総合的に判断する入学方法。プレスクール無料、入学選考料免除(通常15,000円が無料) 「指定校推薦入学」・・・デザインの分野に強い興味と熱意があり、入学を希望する者が本校の定める基準を満たし高等学校の推薦を受けた場合、高等学校との信頼関係に基づき優先的に選考を行う指定校推薦による入学方法。入学選考料免除(通常15,000円が無料、入学金5万円免除(通常150,000円が100,000円)) 「特待生推薦入学」・・・高等学校での学習の取組において、地域社会と向合い、自ら課題を発見し解決に向けた行動を行い、自らの提案をプレゼンテーションしてきた成果を残された者に、地域から世界で活躍する事を目標とする人材の修学支援をすることを目的とする入学方法。 1年次: 入学金は全額を支給(通常150,000円が無料) 1年次・2年次・3年次: 授業料は半額支給(通常650,000円が325,000円)、維持費は半額支給(1年次110,000円が55,000円、2・3年次ノ通常120,000円が60,000円)、実習費は半額支給(1年次ノ通常80,000円が40,000円、2・3年次ノ通常130,000円が65,000円) ※進級時に学内判定会議で基準を満たしていないと判定された場合は、特待生資格を失い一般生となる。 「建築士特待生推薦入学」・・・高等学校での学習の取組において、地域と取り組んだ活動や学校行事での活動を行い、成果を残された者に、地域から世界で活躍する事を目標とする人材の修学支援をすることを目的とする入学方法。 1年次: 入学金は全額を支給(通常150,000円が無料) 1年次・2年次・3年次: 授業料は半額支給(通常650,000円が325,000円)、維持費は半額支給(1年次110,000円が55,000円、2・3年次ノ通常120,000円)が60,000円)), 実習費は半額支給(1年次ノ通常80,000円が40,000円、2・3年次ノ通常130,000円が65,000円) ※進級時に学内判定会議で基準を満たしていないと判定された場合は、特待生資格を失い一般生となる。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																															
第三者による 学校評価			■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																															
当該学科の ホームページ URL			www.bunka-gakuen.ac.jp																															

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は、企業が求める人材ニーズや地域の産業振興の方向性を把握し、職業教育を向上させるために、企業・団体と連携して授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を行うなど、企業等の要請を考慮した実践的かつ専門的な教育課程の編成を行うこととし、各学科の関連業界の動向や地域の産業振興に関して知見を有する業界団体の役職員や、実務に関する知識、技術、技能に関して知見を有する企業の役職員の方々を委員とする教育課程編成委員会を設置し、様々な意見を活用して教育課程を編成することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

下記図にあるように、教育課程編成委員会は校長が直轄して委員会を開催する。委員会は、授業科目の開設や授業内容・方法の改善や、企業が求める人材や就職に関して審議し、その結果を取りまとめ教務会議に報告する。教務会議は、報告のあった事項についての意見を活用し教育課程を編成するものとする。

講師会議

・教育課程の実施
・授業内容・方法の改善・工夫

教務部

校長

教育課程編成委員会

教育課程の編成

教育課程編成指示

審議結果の報告

教務会議

審議事項の意見を活用して教育課程の編成を行う

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1現在

名 前	所 属	任期	種別
倉田 稔之	茨城デザイン振興協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
坂 大樹	株式会社 スタジオサカ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
樺本 学	いばらき印刷株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
西條 友弥子	元茨城県デザインセンター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
林 雄一	林経営事務所	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山中 貴之	株式会社 水戸京成百貨店	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山本 貴広	ウェディングプロデュースショップ エクラ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
杉浦 時彦	株式会社 アットワーク	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
棚井 政江	茨城インテリアコーディネーター協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
井坂 光宏	茨城県建築士事務所協会	令和6年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
横須賀 弘	有限会社 コムスペースデザイン	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
渡邊 忠	学校法人 リリー文化学園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
荒井 真次	専門学校 文化デザイナー学院	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
川上 大輔	専門学校 文化デザイナー学院	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

2回 / 毎年 2月、7月

第1回 令和6年7月8日 14:00～16:00

第2回 令和7年2月8・15日 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2024年度 第1回教育課程編成委員会(7月8日)の活用状況

教育課程編成委員会等の意見	活用状況
	◆全学科全学年 授業名:修了制作にかかわる授業 2024年度も継続
①意見委員(倉田委員) 時代に合わせて綿密に計画されていると思う。時代に合わせて対応していくことに努力していることが非常に伝わる。その結果が就職率などに表れていて素晴らしい内容だと思う。社会人にもデザインを学んでもらうことはデザインを目指す学生にとってはライバルにもなるが、デザインが行政や企業を問わず課題解決のキーワードになっていることは、実社会の動きを見ても非常に強くなっていると感じるので、社会人対象の学科を開設したことは実情に沿っている。ただ、仕事としては社会的評価につながっておらず、特にグラフィック分野の報酬が低いというイメージが一般的に低いイメージが広がっていることが残念に感じる。学校として企業や行政と連携して提案をしていくことが、イメージの改善になり、デザインの評価がもっと上がると思うので頑張っていたきたい。	・時代の変化に対応することは非常に重要である。近年は特にAI技術の進歩が目まぐるしく、教え方そのものが変わってくると感じている。それに対しては、リクルートなど新しい情報を持っている企業からの情報収集が第1歩となる。そこから学内で分析をして目指す方向性を見出している。講師会では、非常勤講師に研修を実施しており、指認められて導内容や方法に関して学んでいる。ご意見をいただいたように、現状分析・課題設定・課題解決・検証と改善をしていくデザインのプロセスを企業経営にいかし、新しいサービスや製品を生み出していくことは、今社会に少しずつ起きている。 ◆キャリアアップデザイン学科 授業名:キャリアアップデザイン学科にかかわる授業 2024年度も継続 ・社会の変化が速く、先を読みにくい中で、学び直しが推進されていることも含めて、デザインを学んだことがない社会人にとっても、仕事の中にデザインの考え方をいかして、キャリアアップやスキルアップを目指すニーズが生まれている。また、企業と連携し、実際に企業や行政が直面している企業課題の解決に取り組んでいる。実施内容としては課題を見つけ提案をすることから、実制作、検証を行い、評価をいただき、企業の本物の課題に取り組んでいる。それが学習効果につながることはもちろん、デザインを業務としない一般企業においても、デザインの考え方やデザインを学んだ人材の価値の向上にもつながると考えている。そうした企業がもっと増えることが、デザイン社会的な評価の向上と入学者の増加につながると思う。

3

	◆全学科全学年 授業名：グループワークにかかわる授業 2024年度も継続
②意見委員(坂委員) 広告プロモーションデザイン学科2年生の企業見学の対応をして話す機会があり、コロナ禍を経てきた世代に感じたことは、説明しないとなかなか物を作りださないということを聞いた。それは仕方ない部分もあると思うが、一人だけでなく、複数のメンバー・複数のチームで協力することで自分の苦手をカバーして、得意なところをどんどん伸ばしていくことが大事ではないかと思う。そういった世代に合った教育をしていくことが大事ではないか。	育ってきた背景を理解することは大切で、Z世代に対して理解することは大切である。高校生に関する意識調査などのさまざまなデータを持つ株式会社リクルートを講師に研修を定期的の実施してZ世代の特徴や価値観を学び、世代に合わせた教え方を講師同士が話し合い、指導力の向上を図っている。各授業では個人制作とグループワークを適宜取り入れ、未知のことにチャレンジすることが苦手でもチームとして取り組むことで、苦手を克服したり、自分の得意なことに気づく機会としている。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2024年度も継続
③意見委員(椿本委員) 授業アンケートを見ると不満という意見も出てくるが、不満は自分ができないことが表れているのかと見受けられた。学生が自分自身に対する不安を授業に対する意見としてぶつけているように思った。なにかしらの対策を考えていく必要があると思う。ただ、企業としても若い世代の心をつかむことは難しいことは実感している。教え方も今まで通りではいけないと感じている。学校側からそのような情報提供があると採用する企業としては変えていけないといけないうきつきかけになる。	・授業アンケートは文字だけなので、言葉のまま受け止めるのではなく真意を掴むようにしている。ご意見をいただいた通り、学生が自分ができない不安がアンケートの不満となっていることもあると思う。 私たちも、不満を不満として受け止めるだけでなく、その背景にある学生の気持ちを理解してあげることが、このアンケートをより効果的なものにしていくと思う。そして、講師、施設環境、または学生自身にも要因がある場合もあり、適切な原因分析と対策をする必要がある。 また、企業への情報提供の点では、やはり、採用と定着にそれぞれの企業が工夫をこらし、悩んでいる面も感じる。企業への訪問と求人への受付対応は、貴重な情報交換の場であり、そういった時間を確保することが、企業に本校の学生を安心して採用していただくことにつながる。
	◆ファッションビジネス学科全学年 授業名：ファッションビジネスにかかわる授業 2024年度も継続
④意見委員(清水委員代理) ファッションビジネス学科はモノ作りの人材を育成したいのではないと思うが、就職先を見てみると、チェーン系の販売職も多く、学生がやりたいことと実際の就職がマッチしているか気になった。せっかくモノ作りを学んでも、いち販売員として終わってしまう可能性を感じたので、企業のことや将来面白い仕事ができるチャンスがあることを学生に伝えたい方が良かったと思った。また、モノ作りに熱心な人材は、モノを売るということを苦手になっている。ものを作って、店舗を作って商品を売って売上になってまた新しいモノができるサイクルを重点的に教えてもらえたらと思う。売ることの大切さを理解することが資格の合格率にもつながっているのだと思う。卒業生を採用させてもらって、すごく良い人材であるがもう一歩足りないと感じたことでもあった。また、各授業のアンケートはあるが、学生の修得度が数値化されているのかという点を知りたいと感じた。それによって何を強化したら良いかわかりやすいと思う。	・本校の出口としては、ファッションビジネスを想定している。服を作ることに関心が高い学生も多く、ファッションショーでは衣装制作を頑張っている姿も見受けられる。一方で作ることに一生懸命な学生が販売を苦手としている面をご意見いただいているが、本校には古着ショップを運営していることもあり、SNSビジネスの授業ではInstagramの運営方法の学習から、実際に商品を使った販売促進を実体験している。その他にも、学生が制作した洋服を販売することもでき、POPUPショップをイオンモール水戸内原や水戸オーバで運営する機会がある。そして、就職をしたときにも、販売職の入口から、企画職やデザイン職に結びつくことを学生に伝えていき、意欲の向上につなげていきたい。 学習成果の確認方法については、各検定の受験後は、合格率や得点傾向をもとに学習計画の振り返りを行い、苦手分野の確認と対策を講師と打ち合わせしている。授業の理解度の確認にあたって、規定課題が出題される実技授業に関しては、学生一人一人に素点評価(0～100点)をいただくことで理解度の確認をしている。試験を実施する科目については、点数を元に確認が行える。また、クラスごとにGPAを算出し成績分布を作成して学習理解度を確認している。
	◆全学科全学年 授業名：企業が求める人材にかかわる授業 2024年度も継続
⑤意見委員(山中委員) 学生優位の就職市場で人気のない業種もあり、接客業もそのひとつだと感じている。そういった状況では、学生気分が抜けていない状態で、入社してから教育を受けてもらい現場に配属している。企業としては、そういった人材に響く内容の研修にするため、外部講師にお願いするなど努力をしているが、やはりOFF-JTが一番のポイントだと考えている。そういった場面では、若い社員とのコミュニケーションに困るケースがよく見受けられる。学生に対して一から計画して実行させ形にすることの大変さを分かるからこそ学校の努力がうかがえる。	・全学科2年次には業界人を囲む会/卒業生を囲む会を実施し、就職を目指す業界の採用担当者/実際に就職している卒業生からの講話を聞く機会を設けている。また、企業見学会を実施し、実際に働く様子を見学したり、仕事内容の説明をしていただいている。それらの機会を通して、企業が求めている人材像と学生を一致させる取り組みを行っている。
	◆キャリアアップデザイン学科 授業名：キャリアアップデザイン学科にかかわる授業 2024年度も継続
	・専門学校としては、企業にしっかりと人材を育成し輩出することを目指している。実際に良い評価をいただくことも多いが、社会全体も含めて考えると、学生優位の市場で、入社後の人材育成に係る企業の負担は増えている状況であることは理解している。それぞれが、自己実現したい目標を持ち、お金を得ることだけに留まらず、社会や企業に貢献することで、やりがいを感じ、自己実現していくマインドを育てることも必要である。また、伝える力、考える力、やりぬく力などキャリアアップデザイン学科ではパーソナルスキル、ポータブルスキルの授業で取り組んでいくカリキュラムとしている。今後は、社会人の学び直しに対応した学科として、キャリア形成促進プログラム・人材開発支援金等の助成金の対象講座として申請する予定である。
	◆全学科全学年 授業名：学科間にかかわる授業 2024年度も継続
⑥意見委員(山本委員) 例えばファッションビジネス学科の様々取り組みの中でも、写真や映像といった広告プロモーションデザイン学科と領域が重なる部分があり、建築設計デザイン学科にもそれは言えることだと思う。学科毎で専門領域が異なるとは思いますが、学生同士がともに学べる機会があっても良いのではないかと思います。学生数が増えている状況だからこそ、所属が違う学科でどんなことを学んでいて、そこに通う学生はどんなことに興味関心があるのかなど、多様な考え方に触れることができると良いのではないかと思います。また、学生数が増えていることは喜ばしいことであるが、一人一人の学生と触れる時間は物理的に少なくなってしまうと思う。年2回の講師会があり、講師と教務部の話し合いの機会があるので、そこで相互理解を図り、しっかりと連携を組むことが、学校生活の意欲を高めることにつながり、教務部としてはそういった体制作りが求められる。 また、就職に関しては、資格がたくさん取得できるカリキュラムになっていることは良いと思うが、資格はあくまで知識であり、仕事で役立つことももちろんあるが、実際に企業を見たり、話を聞いて仕事のイメージを持てるような機会は大切だと思う。	学科内の縦の繋がりを意識する機会として、水戸まちなかフェスティバルがある。2、3年生が主導となり、新入生とグループで活動を行い、異なる学年間の交流を図っている。また、水戸デザインプロジェクトでは、学科間の横のつながりを意識している。学科の垣根を越えて、グループ活動を行い、仲間意識と相互理解を図り、学校としても一体感を持てるイベントになっている。2024年からは校舎内での作業から、水戸市民会館を使い、学外に活動の場を移し、実施している。 在校生数も四半世紀で最大となり、対応する教務の人数を増やしている。また、多様な学生が増えており、学校に毎日通うことにハードルを抱えている場合もあり、適切な指導ができるようレベルアップも求められる。学生指導に関する研修の機会も年間を通して複数回実施している。 職業や会社を理解すること、自分自身のやりたいことを明確にすることが就職活動には必要で、1年次よりキャリアデザインの授業で基本的な就職指導を行っている。2年次には企業見学を実施し、企業の話聞くことをしている。また、自己発見プログラムでは、自分のやりたいことを深める授業を行い、3年間自分のぶれない軸を持って就職活動と日々の授業の意欲向上に努めている。

	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2024年度も継続
⑦意見委員(井坂委員) 1年生に関しては企業への提案を行う内容になっていると思うが、何もわかっていない状況での取り組みは疑問に感じる部分もあった。また、内容的にインテリアに特化しているように見えた。指定科目にあたる、計画、施工、法規、構造に関する授業はもちろん歴史など基礎にあたる部分は1年生で授業があるともっと良い内容になると感じた。	企業団体との連携課題に1年次から取り組むが、前期が準備期間となっており、後期で企業連携による課題制作を行って1年間をまとめている。しかし、1年次は、デザインのプロセスを体得することに重きを置き、企業連携による課題のボリュームが過多にならないようにしている。また、発想を妨げないよう価格や構造的な制限は設けていない。そして、建築・インテリアを初めて学ぶ学年でもあることから、ものづくりの楽しさを感じられるDIYや雑貨デザインの授業を行うカリキュラムとしている。また、本校は2級建築士の受験資格実務0年認可校となっており、受験資格取得に必要な計画、法規、構造、施工の授業を実施している。その他にも建築史、色彩学、パース表現技術など基礎的な授業も行っている。

2024年度 第2回教育課程編成委員会／学校関係者評価委員会(2月8日、15日)の活用状況

教育課程編成委員会等の意見	活用状況
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
①意見委員(倉田委員) (PD3グラフィックゼミ) 良く下調べがされていて、それに基づいた提案のリアリティがあって良かった。 (PD1) なかなかハードルの高いテーマで、大変だったと思う。 (PD1ポートフォリオ) 楽しく基礎を学んだ跡が良く伝わってきた。 (AD3) プレゼンテーションのグラフィックの表現が秀逸。それに惑わされて本質のクオリティが少し見えにくいかも知れない。 (FB3) コンセプトがしっかり組み立ててあり、デザインへの展開がスムーズでとても良い。 (CD) 出来たばかりの学科とはいえ、一年間で四つの連携を行っている事は大変有意義な学習になっていると感じた。また、プレゼン資料も実際のクライアントに向けた内容になっており、本科三年のプレゼン資料とはまた違った仕上がりになっていた。この先の企業には喜ばれるような活動内容になっている。 (全体) 細かな途中経過を知らなくても結果が分かる制作展になっていた。アイデアはもちろん大事だが、実社会で大事なのは誰がやるのか、ということ。発想は自由で良いが、一方で現実の厳しさ、難しさがあることを卒業直前でも良いので伝えられる機会があると良いと思う。	(PD3グラフィックゼミ) 情報収集→学生の気づき(課題)→仮説(解決)→制作→プレゼンの流れを明確に指導していきたい (AD3) 現場に行き行って感じた事、地元の方々と触れ合って分かった事、その地域の方々が求めている事など、その地域のことを調べて理解した事など、デザインという形を作るまでにやらなくてはならないことがあり、その過程の中で見つけた課題を解決し、デザインの力で表現することの重要性を伝えていきたい。そして、表現力を活かしつつ、「何をどのように解決したかったのか」という設計の本質部分がさらにクリアになると、提案の説得力が増してくるので、今後も引き続き指導に留意したい。 (FB3) コンセプトを考え表現することは、ファッションビジネス学科に限らず、デザイン学校として大切に行っていることであり、コンセプト立案→デザイン展開→空間演出→プレゼンの一連の流れを体系的に学べる構成を意識し、1・2年次から、段階的に訓練の場を設けると効果的だと考えている。 (CD) 学生自らが企業課題を見つけ解決する方法を探り提案し、検証できる体験は、実践的で主体的な学びを促したと感じる。今後社会人学生が入学した際にも、デザインの思考を用いて自社の課題解決にいかすことで、企業にとっても中核人材の育成につながるプログラムになると良いと考えている。 (全体) 修了制作課題の各自治体へのプレゼンテーションでは、実際に課題を抱える当事者として、提案を実行することを考えていただいたときに質問を受けることもある。予算の質問や誰が運営するのかといった点になるが、そういった部分で学生も現実の難しさを感じる場面があり、特に最終学年には伝えられるようにしたい。学生のために用意した答えがある課題でなく、答えがない課題という意味では、連携団体、企業のご協力が良い学習になっていてありがたいと感じる。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
②意見委員(坂委員) (PD3映像ゼミ) 毎年技術は着実に上がっている。あとは発想の仕方がやや画一的で気になる。多少やり過ぎくらいに自分を出しても良いのではないか。 (PD3地域ゼミ) 伝統×革新のデザインが多く見られて良かった。 (PD2) いつも電車に乗っている人や鉄道好きな人の作品がはっきり分かり面白かった。好きな部分を突き詰めて欲しい。 (PD1ポートフォリオ) 基本のデッサンは経験が無いと大変だと思うが、やればやるだけ上達していくので、定期的にブラッシュアップして欲しい。 (AD1) 高齢化社会に伴う、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れて欲しい。	(PD3映像ゼミ) 斬新で良い作品を作るためには、課題をしっかりと理解して、自分事としてとらえ、自分の考えを持って作ることが大切である。インターネットや文献だけでなく、直接クライアントから話を聞く機会やイベントに参加するなどの機会を修了制作の過程では設けている。無難な作品を作ってしまう背景には、課題の読み込みが甘いかもしれないので、クライアントからのレクチャー、講師・教務からの説明をしっかりと行っている。 (PD2) 学生の好きなことを軸に社会にどういかすことができるかを考えることによって、発想を広げることやモチベーションにもつながってくる。結果として、オリジナリティの高い作品作りにもつながるので、それぞれの学生のモチベーションの源になることを見つけることは指導のポイントの一つになる。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
③意見委員(椿本委員) (PD3映像ゼミ) 作品を紹介する点では映像の方が伝わりと感じた。提案という点では紙や展示物の方が伝わる。 (PD2) 楽しむイベント提案という事で、楽しい雰囲気が伝わる提案が多く見られた。 (PD1) テーマが大きすぎてキャラクター制作が難しかったのではと感じた。 (PD1ポートフォリオ) 描くのが好きと感じる作品だった。 (AD2) 現地の人の意見を聞き、課題解決を取り入れた提案になっていた。 (AD1) 1年生と3年生では、やはり実力の差があると感じた。 (FB2) コンセプトとディスプレイがイメージ通りに制作できている。	(PD3映像ゼミ) 展示の工夫として、企画の概要を伝える紙(パネル) 展示、個人作品としての映像展示、ゼミ全体を端的に伝えるダイジェスト版など、半年間の取り組みを端的に見える化できる展示の方法も毎年の作品展では改善点の振り返りを行いたい。 (PD1) 県北地域の活性化を考える広いテーマで難しい部分もあったかもしれない。各学生は県北の地域や特徴を絞り込み、なにかにフォーカスしてキャラクター制作に取り組んだ。そのプロセスも思考力を養うトレーニングになれば良いと思う。 (AD2) 現地の生活課題や声を丁寧にリサーチした点は評価が高いため、引き続き地域住民からアンケートをとることやワークショップの実施を強化し、提案のリアリティと説得力を高めていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
④意見委員(西條委員) (PD3グラフィックゼミ) 笠間燐の認知が上がらないのは誰が作っているか知らないからという視点が納得でき、他の学生も同様の視点で、かつ違うコンセプトだったのは面白い違いだと思った。仮説がしっかりしているとアウトプットも筋が通っていて良い発表だった。 (PD1ポートフォリオ) 表現やクリエイティブツールに早くから触れているのだらうと感じる。デッサンなど基礎力は学生によるようだが、アウトプットのクオリティ、ツールの慣れ度は高いので、より基礎をここで高めてほしい。 (FB2) モノクログラデーションとテーマで制限を与えながら、それが表現力を際立たせていた。実際の仕事でも様々な制限がある中で、それを活かし、いかに解決するか、という力に期待したい。 (CD) 回を重ねることにプレゼン資料のクオリティが上がっていて、短時間の中で頑張って取り組む様子が思い浮かんだ。様々な企業に触れ、そしてその縁が社会人になってから生きることを願っている。 (全体) 社会情勢を組み込んだ修了制作展になっていた。建築設計デザイン学科の鯨ヶ丘商店会に向けた提案は、現実的な事を考えて地に足のついた提案になっていた。ファッションビジネス学科は昭和レトロ、平成ポップ、アンテナをしっかりと立て時代のニーズに応えられる作品が作られていた。	(PD3グラフィックゼミ) 現状を把握・分析し、課題を見つけ、それぞれの学生の気づきからデザインのアイディアが生まれていることは良い学習になっていると思う。個性や感性を伸ばし、独創的な発想を形にしてプレゼンテーションでしっかりと伝えられる人材が、今後の教育目標となってくると感じる。 (PD1ポートフォリオ) 初等教育のICT化やデジタル社会で育ついまの世代は、手を動かすことやアナログ的な感覚が変わってきているのかもかもしれない。反面デジタルツールは得意なので、バランスのとりのりは今後検討する点としていきたい。 (FB2) 実務においても現場環境や予算など様々な条件の中でいかに質の高いものを作れるかが大切だと考えている。そのときに試行錯誤してアイディアを出し工夫することで解決できることもあるので、実際の現場でもそのような力が活躍するためには必要である。本校の教育では、デザインを紙面上で考えるだけでなく、実際に形にすることを体験する機会が多く、そこから得られる学習効果があると考えている。 (CD) 少人数だからこそ企業の経営層と直接打合せをした体験が自信になったとの学生の声があった。また、連携した企業への就職につながった。 (全体) 本校の地域の課題解決に取り組むことによって得られる学習効果は、長くデザイナーとして時代・世代に応じたコンテンツを生むための課題解決力を養うことにつながると考えている。2年次の到達目標としても最終学年にもつながる成果になったと感じる

	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑤意見委員(山中委員) (PD3映像ゼミ) 地味なイメージの笠間焼をPOPで身近に感じさせる提案になっていた。 (PD2) ターゲットや内容が県北エリアへ足を向かわせる企画になっていた。 (AD3) ぜひ行ってみたいと思わされる地域づくりだった。 (FB3) アパレルが苦戦しているが、まだまだ伸びしろがあると印象付けられた。 (FB2) 服や空間へのこだわりや感度の高さが好印象だった。 (FBファッションショー) 当社でもファッションショーを開催して貰えたらと思う。	(PD3映像ゼミ) 固定概念に捉われない発想を提案としてまとめることは、企業・団体等の連携先にとつてのメリットであり、個々の学生が持つ自分らしさを磨くことで社会に出たときの価値にもつながると思う。 (PD2) 実践的な学習を行うメリットが、実際社会での活用を想定して評価をいただける点にあり、地域へ足を運ばせる仕組みとして成立していたことは、学生の成長につながっていると感じる。 (FB2) こだわりを持つことは大切である。そのためには学生が主体的に取り組む環境づくりが必要で、講師会では、講師間のノウハウを共有することや打合せを行っている。また、デザインを学ぶ上では、こだわりをいかに周りに共感してもらえるかという点も大切であり、それを伝えられるようなプレゼンテーションを目指している。そのような状況を作れると、感度の高い作品が生まれる。 (FBファッションショー) ポジティブなご意見が産学連携を今後さらに広げる足がかりになると感じる。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑥意見委員(棚井委員) (PD2) 表現されているものの中身やコンセプトの内容が素晴らしかった。 (PD1ポートフォリオ) 工夫して各自まとめられていて「好き」が溢れていたように思う。デッサンの上手な学生もいて良かった。 (AD3) 力作揃いだった。テーマ決めと着目点も良く、提案力も素晴らしかった。 (AD2) 地域の特性を捉えて考え、表現されていた。常陸太田市の人なら椅子を見た途端に「鯨ヶ丘」の形だと分かる。椅子が商店会に置かれるのが楽しみ。 (AD1) 地域の事をよく考え、それを形で最大限に表現されており、良くまとまっていた。 (FB1) 好きが伝わってくる作品。どの作品もキラキラ輝いていて素敵だった。	(PD1ポートフォリオ) ポートフォリオは就職活動の準備として指導を行っているが、1年の成果をまとめることで次の学年の足掛かりになり、学校の課題以外にも創作活動を行っている学生もあり、クラスメイトの作品を見て自分を客観視することにもつながる。 (AD3) コミュニティデザインの授業では4月より現地でフィールドワークを開始しており、年間を通して、地域との交流を図り、理解を深め課題制作に取り組んでいる。その結果が、見る人に伝わる形でアウトプットできていることは、学生が卒業後に求められる課題解決力や地域で求められるデザインを考える力が身に付いたと評価できる。最終学年の学習効果として到達したい目標であり、今後も継続していきたい。 (AD1) 実務においても地域や企業、顧客の特性をしっかりと捉えることは重要であり、そこに建てる意味のあるものだからこそ愛着が生まれる。1年生は、デザイナーを目指す第一歩として、そのようなデザインを生むプロセスをしっかりと学ぶカリキュラムしていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑦意見委員(井坂委員) (PD3映像ゼミ) 映像広告として分かりやすいと感じた。 (PD3地域ゼミ) 地元の作家との協同は素晴らしい取組みだと思った。 (PD2) 満月と列車の組み合わせは、ライフスタイルまで提案してあり良かった。 (PD1) 県北地域に人を呼ぶキャラクターを良く考えられている。 (PD1ポートフォリオ) デッサンの基礎は大事である。 (AD3) 各個人のプレゼンテーションも上手くなっている。 (FB2) ユニークなファッションでワクワクできた。想いと表現が一致している作品を見ることができ良かった。 (FBファッションショー) イオンのファッションショーは良い経験になると思う。	(PD3地域ゼミ) 学生自ら作家に働きかけ、取材をさせていただいたり、コミュニケーションをとったことが、熱意として伝わり、試作品を作っていただけたことにつながったと思う。学生が起点となり、大人を巻き込んだ提案になったことは評価に値すると考える。地域デザインゼミでは、グループワークを取り入れており、仲間と協働することでより大きな成果につながったと思う。 (PD1ポートフォリオ) 描くことは観察や考えることにもつながり、どの学科でも1年次には描くことを基本にした授業を行っている。授業の時間は限られているので、その時間の中でしっかりと取り組んでいきたい。 (AD3) プレゼンテーションは場数を踏むことが上達する方法のひとつであり、苦手な学生でもチャレンジし続けることで成長につながることを感じる。教務・講師含め、なぜプレゼンテーションが大事なのか、根気強く伝え続け成長につなげていくことが大事である。 (FB2) コンセプトと空間演出が一致しており、世界観を明確に伝えられることは、ビジュアルマーチャライジングの学習の成果が表れている。 (FBファッションショー) 今後も企業・地域と連携したリアルな場での発表を積極的に導入して学習意欲の向上に努めたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑧意見委員(清水委員代理) (PD3地域ゼミ) 笠間焼の個性的な質感や歴史を感じられるデザインが少ない気がした。 (PD2) JRとの連携だったが、電車のデザインイメージを感じられる作品が少なく感じた。 (FB3) JR南口オーバの立地に合ったコンセプトのSHOPだと感じた。不景気時は街中BLACK系のファッションが多くなるが、とても新鮮で元気で良いと思う。 (FB2) 坂本さんの作品が良かった。リアルクローズでありながらアイデアも多い。デザインの説明をしてくれた学生は情熱が良く伝わった。これからも同じ気持ちで勉強して欲しい。 (FB1) プレゼンテーションをしてくれた学生の作品は、今時の流行に左右されていないところが良かった。作りたいもののコンセプトがしっかりしていた。 (FBファッションショー) リアルに商品化できそうなアイテムが多く、現実的で良い。商品の仕入れで年間数千点の商品を見ているが、リアルにありそうで面白い。	(PD3地域ゼミ) 現在の学生は経験値が少なく、本物の価値を見抜くことに未熟さがあり、それに対して研究することも苦手である。この先の時代では生成AIが主流となり、何が良くて何が悪いのかを判断できる力が求められる。その力は全学生に対して強化が必要だと認識している。地域資源に関する事前学習やリサーチ授業をさらに充実していきたい。 (PD2) 昨年の修了制作でもグラフィックで表現できることのひとつとして、店舗の空間デザインに取り組んだ。平面の構成感覚を養うトレーニングは数多く行っているが、立体的な表現に苦戦した学生もいたかもしれない。制作のボリュームも増えるため、AIの技術も活用するなどして表現力を磨いていきたい。 (FB3) 実践的に学ぶためには、今後も実際の場所・ターゲット層を設定できるような課題を設けることが重要だと考える。ファッションの分野では、トレンド分析と社会情勢を踏まえたマーケティング教育も充実させていきたい。 (FB2) 本校のファッションビジネス学科の将来像としては、コレクションやオートクチュールを扱うよりも、全国展開している一般消費者向けのアパレルであることを踏まえると、普段使いできる洋服のデザインや技術を身に着ける方向性が合っていると考える。ファッションショーをはじめ、着用できる衣装を制作している。 (FB1)トレンドを意識することも大切だが、安易に流されてしまい、自分の考えがない提案になってしまふのはよくないと思う。しっかり考えた上で流行に沿った提案になることもあると思うが、なぜなのかを説明できると良い。 (FBファッションショー) 学生の作品という枠を超え、商材としても魅力的に見える作品が作れると良いと思う。ファッションショーでの衣装制作は、自分や他者が着用するものであり、見せるだけでなく、着れることを考えて制作しなければならぬので、それがリアルな商品としての価値を生むことにつながっていると思う。ファッションビジネス学科としてショーを実施する意義としては、コレクション向けよりは、ビジネスの場面での感性を高めることにつながると良いと考えている。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑨意見委員(大塚委員代理) (PD2) 実際にイベントが行われても人気が出ると思った。 (PD1) 頭身を変えたキャラクターもよく考えられている。 (AD3) パースの画角が素晴らしい作品があった。コミュニティ施設という難しいテーマだが、色々なこだわりがあって、図面や模型を制作していてすごいと感じた。 (AD2) イメージパースが沢山の角度があり分かりやすかった。鯨のフォルムの椅子が可愛かった。 (FB3) Y2Kファッションが素敵だった。コンセプトで一色になった空間が良い。	(AD3) 技術はAIなどで補える時代がきており、パースなどの表現で可視化するためにデザイナーはイメージを持つことが大切になってくる。自分の頭の中のイメージが表現できるようになると、プロンプトだけで表現する生成AIよりも自分のイメージが伝えられるようになる。イメージ力をつけるための、基礎的なスケッチ、デッサンの授業は各学科に設けられている。 (AD2) 今年度は家具デザインの授業でも修了制作を題材として家具の提案を行った。その結果、店舗内の空間イメージも具体的になり、インテリアパースの質の向上につながった部分もあった。次年度以降は題材にもよるが、今回の事例をいかしていきたい。

	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑩意見委員(岡田委員) (PD3) 地域が抱えている課題を解決するために、どのようなデザインが必要か広く考えられていた。2年生までに学んだ科目から自分に合ったゼミを選択することが出来るのは良い事だと思った。(PD1ポートフォリオ) デッサンや平面構成、レタリングなど手描きの課題については、もう少し完成度が上がっても良いかも知れない。(AD2) 作品の説明にストーリー性があり、とても分かりやすかった。(AD1) 地域の特性に合わせたコンセプトを立てており、コンセプトに合わせて素材も選んでいる。1年生にもかかわらず、その説明をしっかりとできていた。(FB2) 1年生と2年生ではプレゼン力に差があり、学校で力を付けていることを実感した。	(PD3) ゼミは業界の動向・学生ニーズを踏まえ、地域デザイン、グラフィック、映像・アニメーションの3つの分野を設けている。選択することによって、就職先を意識して学習に取り組むことができ、また自分の得意な部分を磨いて、自信をもって就職活動に臨めるカリキュラムにしている。(PD1ポートフォリオ) デジタルツールの普及で、入学前段階での描く、塗る、切るといった手作業の経験が少なくなってきたのかもしれない。それと手描き作品のクオリティの相関は一概に言えないが、ツールを使いこなせるようになったときには、基礎力の差が質の差につながると思うので、授業内外を含めて継続的に学生が基礎トレーニングに取り組める仕組みが必要になってくるかもしれない。(AD2) (AD1)「なぜそう考えたのか」「どうやって調査したか」など、デザインに至るまでの思考プロセスをプレゼンテーションの中で言語化できることも重要なので今後も伝えていきたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑪意見委員(竹越委員) (PD2) コンセプト、アイデアをグラフィックに上手く落とし込めている作品が多くあり良かった。やる気を感じるプレゼンもよかった。(PD1) イラストのクオリティが年々高くなっていると感じる。やや表現に偏りがあり、マンガ的な表現が多いとは思うが、1年生は楽しく作れることも大切なので、それも良いのかと思う。(PD1ポートフォリオ) 作品のファイリングだけが目的ではなく、初めての人が見る・読むことを想定するなら、ポートフォリオが作者の代弁者となって、この学生に実際に会って話をしてみたいと思える工夫があってもいい。学生のパーソナルによると思うが、例えば、玉ねぎデッサンの作品タイトル部分に「自己主張の強い玉ねぎ(コントラストを付け過ぎました)」といった大喜利のようなオリジナルのキャッチコピーなど、学生の人柄が感じられると私は会いたくなってしまうと思う。(AD2) アイデア・作品が本当に実現できるのではないのかと思うくらいしっかりと練ってあり驚いた。「おみくじ」「結び机」もそのまま商品化できそう。(FB2) リメイクの良さとオリジナリティの活かし方の良さ、両方あって良い作品ばかりだった。作るのは大変時間がかかると思うが、学生のうちに、あのような作品を残せるのはとても良い。	(PD2) やる気や熱意が表現にも現れていたことは評価に値すると思う。そのような学生がもっと増えるような指導を行っていきたい。(PD1) 1年次はデザインのプロセス(情報収集→課題設定→解決案→デザイン制作)を体得することを最も大事にしているが、修了制作においては、個人のやりたい表現を尊重しつつも、クライアントのイメージに合った実用性のあるデザインを作ることが求められる。その過程を踏むことで、なぜそのようなデザインになったかという説明ができるので、楽しむことも大切にしながら取り組んでいきたい。(PD1ポートフォリオ) 1年生の段階では、ポートフォリオというものを理解するために模範的なものを制作する授業を行っている。2年次以降は学生それぞれの形で制作に取り組む流れになっているので、その際には、人柄や個性が現れた、会いたくなるポートフォリオを目指して指導していきたい。(AD2) 表現の自由や思い切ったデザインを後押ししながらも、地域の特徴や住む人の暮らしをしっかりと考えることで、現実性の高い提案をしていきたい。(FB2) 作品が形になることで得られるやりがいや達成感は次の課題へのモチベーションにつながる。また、ものづくりに対するこだわりや時間を注いでよりよい作品を作る情熱を持ってほしい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑫意見委員(羽持委員) (PD3) デザインする上で必要不可欠な現地視察をしっかりと行っていると感じた。個人的な気付きをアイデアやデザイン、企画に発展させたというプレゼンテーションに、良い学び・経験をしていると感じた。(AD2) 周辺の生活圏としての利便性や求められているもの、また生活者の課題、心配な事は何かというリサーチもして想定しており、建築の構造的なことだけではなく、ターゲットに必要なとされるサービスまで企画提案に含まれていた。モノだけでは無くコまでデザインされた思いやり溢れる提案になっていたと思う。(FB3) ファッションの分野に留まらず、建築デザインや広告・グラフィックの要素にまで踏み込んだ学びになっていた。この多面的な学びを提供できるのは文化デザイナー学院だからこそその強み。選抜された学生一人のジョブを、クラス一丸で作り上げることも良いと思う。(FB1) ターゲットは高校生とのことだが、高校生から投票してもらうような機会があると、学生にとってもより良い学びになるのではないだろうか。(CD) 1年間で4つの企業連携の授業が受けられるのは強みだと思う。中には連携先の企業実店舗で学生が企業側としてお客様と関わる販促イベントもあったが、デザイナーになると案外体験できない事のように思う。貴重な体験ができる活動内容だと感じた。	(PD3) 課題解決の過程では、さまざまな情報を収集して、気づきを課題に設定し、デザインへとつなげていくことが重要であると考える。学生それぞれの気づきは、体験活動を通して得ることが多いが、教える側はさまざまな問いを与え、考えさせることが必要である。(AD2) 2年次のジョブデザインでは、形からでなく、機能やサービスから空間・建築を考えることを前期から取り組んでいる。後期の修了制作では、実際の店舗としてのリアリティを追求することで、細部までこだわった空間をデザインすることにつなげていきたい。(FB3) 多様で個性が尊重する時代では、価値観の違うもの同士が協働して目標に向かうことが大切になってきている。現在の在校生は、中学・高校時代にコロナ禍を経験しており、体験・グループワークが制限された時期や、SNSやインターネットを通した人間関係が容易に作れる世代であり、協働しながらひとつのものを作り上げることは良い経験になると感じる。(FB1) 1年生の段階で「好きなものをどう社会とつなげるか」という視点を持つことは大切なので、実際にターゲットとする高校生からフィードバックをもらえる機会があるとよいと思う。(CD) キャリアアップデザイン学科では、1年を4クールに分けて4つの企業連携を実施している。スピード感としても、学生のペースではなく実務ペースで進めていき、年間4つの課題に取り組むペースとしている。学生の提案に対しても、実証の機会を設けフィードバックを得ることも行っている。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑬意見委員(鈴木委員) (PD3グラフィックゼミ) 200年後を繋いでいくために、再利用×金継ぎという発想と、自らアクセサリを制作する実行力が素晴らしいと感じた。(PD1ポートフォリオ) 学生の作品を立面で見せる(1〜2枚)と、展示自体の魅力が増すと思った。(AD3) 酒蔵のビフォーの写真・現状の写真が入り口にあると学生の作品の魅力、やりたい事がより伝わるのではないだろうか。(FB3) アパレル業界が抱える悩みから発想した「平成」というキーワードと全世代を巻き込もうとする共鳴という案が素晴らしい。(FB2) アイドルになりたい日常と憧れをテーマにリメイク衣料を作ったディスプレイ提案。想いが伝わるプレゼンテーションがとても良かった。ディティールへのこだわりが詰まっていて、聞いていて力を貰えるようなプレゼンテーションだった。(FBファッションショー) ファッションショーのテーマを壁に可視化できるとデザインの意味がより伝わると思う。	(PD3グラフィックゼミ) 学生が課題にのめり込んだ良い事例だと思う。一定のレベルに到達すると手を止めてしまう場合もあるが、より良い作品作りを目指して最後まで取り組めた。そのような学生が一人、二人と増えることでクラス全体のレベルアップにつなげたい。(PD1ポートフォリオ) A3ファイルの冊子を平置きで展示していたので、空間としても寂しい印象を与えてしまったかもしれない。ページ数が多いので、特徴や個性を端的に表現するものがあった方が良いかと思うので次年度の展示計画にいかしていきたい。(AD3) 展示方法については、毎年レイアウトを検討しているが、課題それぞれに設定があるので、その内容をわかりやすく伝える展示方法も考えていきたい。(FB2) 強いメッセージ性を持っていて惹き込まれるプレゼンテーションができたことは、学生の主体性を伸ばせた結果であると考えられる。講師会を通して継続して講師間では、主体性を高める方法についてディカッションを続けている。そのような取り組みを継続していきたい。(FBファッションショー) ファッションショーに限らず展示のわかりやすさは、毎年来場者に実施しているアンケートなども参考にしながら、改善点を模索していきたい。

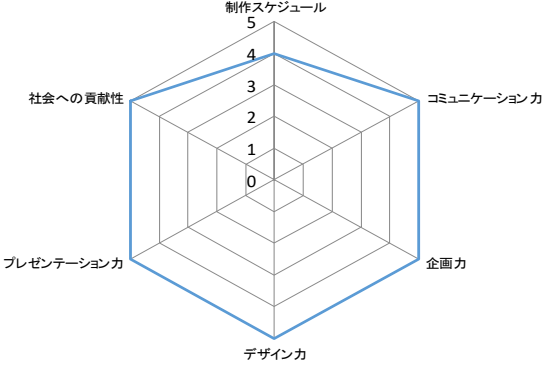
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑭意見委員（関根委員） (PD2) ライフスタイルをテーマにしている作品は良いと感じた。なかなか難しいテーマなのに良く対応していると感じた。 (AD3) 3年生になるとレベルが高い。提案力もある。建築関係で働くときには提案力は本当に重要になる。 (AD1) 住民人口増加がテーマであり、この時代においては必要な内容である。1年生はまず建築に興味を持たせる(大好きになる様に)ことが大切であり、それを感じさせる課題設定にもなっていたかと思う。一人ひとりのリサーチ力も個性的で面白かった。思いきったデザインも将来が楽しみだと感じた。 (FB2) 日常と憧れ、学生の強い思いが伝わってきた。学校では何よりも大切な、気持ちの部分を学ぶことが出来ていると感じた。 (全体) 一生懸命で想いが伝わってきた。JRに向けた提案は、テーマを考えることが難しいのではと思ったが、良くまとまっていた。建築設計デザイン学科1年生はまず建築に興味を持ってもらいたい。指導講師の藤田先生からも建築を好きになってほしいという気持ちが伝わってきた。3年生は提案力がある。お客様への提案力はこの先とても大事になるので、意識して学びに生かして欲しい。3年生になるとレベルが上がり、いい作品を作るといつも実感している。ここで勉強している学生が将来茨城県内で活躍できることを願っている。	(PD2) ターゲットを明確化するためにペルソナを設定することで、ユーザー像が具体的になり、消費・購買行動につながるので、広告プロモーションデザイン学科に限らず大切な考え方である。 (AD3) 単なる制作力だけでなく、企画・プレゼンの力を鍛えるカリキュラムが成果につながっていると評価できる。さらに現場視点に近い課題・プレゼン環境を導入することで、教育効果を高められる。 (AD1) 1年次の教育では、興味関心を深めながら専門知識・技術を習得することは重要であり、講師からの講義的な指導だけでは難しいと感じる。2・3年次でも、ものづくりを行う授業を積極的にカリキュラムに取り入れている。 (FB2) 本校の学生が目指すプレゼンテーションの形は、起承転結やストーリー、ビジュアルが整っていることに、学生の想いや気持ちが乗って個性や感情が現れることを目指したい。教える側もそれを伝えられることが必要で、機械やインターネットで教えられることなく、人ではできない領域である。修了制作のプレゼンテーションでは、異なる学科や学年が参加している。下級生は上級生のプレゼンを見ることで目標にしてみたい。また、各学科修了制作展期間には講演会を設け、活躍されている方の話を聞く機会も設けているので、目標や意欲を高めることにつなげたい。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑮意見委員（阿久津委員） (PD3映像ゼミ) 動画のカメラワーク、編集が良く出来ていた。 (PD1ポートフォリオ) 全体的に作品のレベルは高い。写真のセンスが強い学生もいて、1年生でハイレベルだと感じた。 (AD3) 指定された課題を自分なりに解釈して表現出来ていた。 (AD1) 建築を始めたばかりの学生には、作りやすいテーマになっており、模型も丁寧に作られていて良かった。 (FB3) はきはきとしたプレゼンテーションとデザイン力、ターゲットへのアプローチもとても良かった。 (FB2) 細かな縫製や複雑な衣装を制作できている。	(AD3) 3年次に限らず自分なりの考えを持って作品制作を行うことは重要である。学年があがるにつれ、課題のスケールやボリュームは大きくなるが、1年次より継続して指導を行い、成長につなげていきたい。 (AD1) 全学科に共通して1年次の修了制作課題では、アウトプットするものを絞って、デザイン制作のプロセスをしっかりと踏むことや表現の追求をして、2年次以降の課題制作につなげている。 (FB3) 平均的なデザインやプレゼンテーション資料は、技術を使えばだれもが一律に作れてしまう時代になり、他者との差別化を図るものは、学生が持つ独自の視点や個性になり、それをどう表現するかが大切になる。結果としてうまくいったときにはご意見にいただいたような評価につながってくるのだと感じる。
	◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2025年度も継続
⑯意見委員（飯島委員） (PD3) 社会課題に対してデザインで新たに解決方法を探っていく取り組みは良いと思う。 (PD1ポートフォリオ) ポートフォリオ展示のそれぞれのテーマ、コンセプトの説明の展示が表側にあるとより分かり易いと思った。 (AD2・3) 2・3年生は既存の建物がどの様変わったのか、もう少し知れると良い。木軸模型があるリアリティが出ると思った。 (AD1) 模型のテクスチャーに色が付いていると良いかと思う。 (CD) 活動の取り組みとプレゼン資料を確認すると、全体的にキラキラしていて良いと思う。	(PD3) 社会の課題をデザインでどう伝え・解決できるかを探る課題は、実際社会で働くにあたって重要な力であり継続していきたい。 (PD1ポートフォリオ) 同様の意見を他の委員からもいただいた。次年度の検討事項としていきたい。 (AD2・3) より提案の価値を伝えるためにも、なにをどのように見せることで伝えることができるか、今後も工夫をしていきたい。 (AD1) 模型の一部に質感・マテリアルパネル、材料の提案（漆喰、瓦、地場木材など）も伝わるような展示ができればより良い。 (CD) 本科生の課題制作においては、学校とクライアント側で学習状況に合わせた課題設定しているが、キャリアアップデザイン学科では、クライアントの課題を見つけることから取り組み、その解決方法を提案し、直接打合せをするなどして、仕事の発注を受けるような体験をしている。企画どまりになってしまう場合もあるが、多くが企画を採用していただき、実証・運用していただいた。企業内でのキャリアアップを目指す社会人にとっても、スキルアップにつながる取り組みを目指していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
本校は教育方針として、「職業実践主義」「プロセス・表現主義」「デザインマインド教育」の三つを掲げている。特にデザインプロセスの実践的学習として「情報収集」→「分析」→「企画」→「デザイン制作」→「プレゼンテーション」までの流れを体験的に学習することは、上記の教育方針を総合的に理解することができる考える。そのために、地域においてデザインを必要とする企業・団体・自治体と連携して学生に「現実的テーマ」与え、担当講師の指導の下、一連のデザインプロセスについて質の高いデザイン力を習得することを目的として実習・演習を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

建築設計デザイン学科1年	
企業・団体等 連携課題 実施報告書	
2024年度 修了制作	
課題名	常陸太田市里美地区の潜在能力を引き出す移住住宅の提案
レクチャー・視察日	2024年9月8日(日)9:00～ レクチャー、現地視察 場所:金波寒月
レクチャー対応	連携団体:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川 仁一様 合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様
レクチャー・視察参加者	講師:中村 聖先生 教務:荒井校長、川上、小堀 建築設計デザイン学科 1年 8名
ワークショップ	2024年11月3日(日)9:00～ 里美ふれあい館イベント広場
ワークショップ参加者	建築設計デザイン学科1年 全員8名
中間審査会実施日	2024年11月20日(水)13:00～16:10 本校6F プレゼンテーションルーム
中間審査会参加者	連携団体:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川 仁一様 合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様 常陸太田市商工会 事務局長 佐川様 講師:藤田 直樹 先生、雨川 充宏 先生、中村 聖 先生 教務:荒井校長、川上、小堀
中間審査会発表学生	建築設計デザイン学科 1年 8名
プレゼンテーション実施日	2025年1月15日(水)13:00～16:00 本校6F プレゼンテーションルーム
プレゼンテーション参加者	講師:藤田 直樹 先生、雨川 充宏 先生、中村 聖 先生 教務:荒井部長、川上、小堀
プレゼンテーション発表学生	建築設計デザイン学科 1年 8名(8名発表)
審査会実施日	2025年2月15日(土)13:30～16:00 本校2F カフェ・ラウンジ
審査会参加者	審査協力団体:茨城県における建築・建設5団体の代表者 茨城県建築士会代表 常務理事 高槻 一雄 様 茨城県建築士事務所協会代表 常務理事 鎌田 富士夫 様 日本建築家協会 関東甲信越支部 茨城地域会代表 会長 大山 早嗣 様 茨城県建設業協会代表 鈴木 勝彦 様 茨城インテリアコーディネーター協会代表 会長 棚井 政江 様 本校講師:建築設計デザイン学科・担当 10名参加 教育課程編成委員:水戸京成百貨店 橋本 人志様、アットワーク 清水 敏之様、エクラ 山本 貴広様、茨城県建築士事務所協会 理事 小川 憲一様 コムスペースデザイン 黒木 翔様、 学校関係者評価委員:水戸ステーション開発 取締役総務部長 丸山 久様、茨城インテリアコーディネーター協会 会長 棚井 政江 様 関根工務店 代表取締役 関根 貴雄 様、andHand建築設計事務所 代表取締役 飯島 洋省 様 根本建築設計事務所 阿久津 裕司 様 卒業生代表:杉山 凜 様(結いのはな)、大塚 麻菜美 様(有限会社コムスペースデザイン) 計2名参加
受賞者	1年次修了制作部門 最優秀作品賞:寺門 航大(てらかど こうた)「CUSTUM LIFE:DIY」 茨城インテリアコーディネーター協会賞:萩原 すず(はぎわら すず)「芸術家のUTOPIA HOUSE」
代表プレゼンテーション実施日	2025年2月26日(水)14:00～16:00 常陸太田市商工会 大会議室
代表プレゼンテーション参加者	提案団体:常陸太田市 副市長 田中 慈和様 連携団体:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川 仁一様、澤田 雄一様 合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様 鯨ヶ丘商店会会長・常陸太田市観光物産協会会長 渡辺 彰様 鯨ヶ丘商店会副会長 Sunny Sunday 小泉 正人様 常陸太田市商工会 事務局長 佐川 和広様 講師:藤田 直樹先生、雨川充宏先生、江ヶ崎 雅代先生、茂垣直樹先生 教務:渡邊本部長、荒井校長、川上、小堀 学生:建築設計デザイン学科3年 12名(建築設計デザイン学科1年 8名、建築設計デザイン学科2年 6名も参加)
最終プレゼンテーション発表学生	寺門 航大、萩原 すず、渡辺 陽大 選抜 3名(8名中)
受賞者	常陸太田市長賞:渡辺 陽大(わたなべ ひなた)「With the Wind」
作品展示期間・場所	修了制作展(2025年2月8日～15日)本校2F カフェ・ラウンジ
成果の評価	・視察においては、団体担当者より9/8(日)にそば打ち体験や常陸太田市里美地区周辺の環境や特徴についてのレクチャーを受け、現状について詳しく知ることができた。また、11/3(日)には里美かかしまつりに参加しワークショップを行い、地元住民へアンケート調査を実施し、様々な意見を収集することができクライアントの理解が深まった。 ・中間審査会や選抜プレゼンテーションも快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただいた。(現状分析・問題発見) ・インテリアや建築の基本である住宅の計画についてプログラム・コンセプト・ダイアグラム等をワークシートをもとに分析し、実践的にプロセスを学習することができた。 ・常陸太田市里美地区がアーティストのクリストがアンブレラ展を行った土地であることや地域の特性・アクティビティを踏まえ、地域の過疎化という課題に対し人口維持や増加につながる住宅を考えることで、その土地の特徴を活かした建物を考えることの重要性、難しさを知ることができた。(問題解決) ・常陸太田市里美地区での生活を楽しむ家族像を学生がそれぞれ設定することで、地域活性化を意識した独自性のある設計を行うことができた。 ・模型の完成度を前年度同様に向上する事ができた。(作品制作) ・中間審査会では、団体担当者に向けプレゼンテーションを行い、現在までの考えを発表・具体的な助言を頂く事で方向性の確認や不足している部分について補うことができた。また、デザインのプロセスを含めて自分の考えを伝えることができた。(プレゼンテーション) ・連携団体からの評価に「地域の要望に応えている」「注目を浴びる建物でプレゼンも良い」「里美ライフが楽しめる」とのコメントを頂き、学生らしい提案と実践的な学修ができたと感じる。(外部評価) 学修成果の評価
反省点	・プレゼンテーション力については、個人差があり経験を積み向上していく必要がある。また、コンセプトやデザインの説明とともに、その土地だから楽しめる暮らしをイメージさせるようなプレゼンテーションができると良い。 ・発想は良いとの評価をいただけたので、さらにアイデアを細部にまでこだわった作品が制作できると良い。 ・街とのつながりや日常生活を送る上でのリアリティや使いやすさをさらに追及できると良い。
外部作品展	第11回茨城学生建築展 主催:一般社団法人茨城県建築士事務所協会 作品公開:茨城県建築士事務所協会HP内「第11回茨城学生建築展」コーナー 会期:令和7年2月20日(木)～
外部作品展 出品者	萩原 すず 選抜 1名(8名中)
教務対応担当	荒井校長・川上・小堀・相沢

建築設計デザイン学科2年		
企業・団体等 連携課題 実施報告書		
2024年度 修了制作		
課題名	常陸太田市鯨ヶ丘商店会に継続的に求められるくじら屋の提案	
レクチャー・視察日	2024年8月27日(火)13:00～ レクチャー、現地視察 場所:常陸太田市郷土資料館	
レクチャー対応	連携団体:鯨ヶ丘商店会 副会長 Sunny sunday 小泉 正人様	
レクチャー・視察参加者	講師:雨川 充宏 先生、中村 聖先生、江ヶ崎 雅代 先生、飯村 信子 先生、矢口 博幸 先生、一色 信宏 先生 教務:荒井校長、川上、小堀 建築設計デザイン学科 2年 6名	
ワークショップ	2024年10月27日(日)9:00～ 鯨ヶ丘商店会	
ワークショップ参加者	建築設計デザイン学科2年 全員6名	
中間審査会実施日	2024年11月12日(火)13:00～16:10 本校6F プレゼンテーションルーム	
中間審査会参加者	連携団体:鯨ヶ丘商店会 副会長 Sunny sunday 小泉 正人様 講師:中村 聖 先生、江ヶ崎 雅代先生、飯村 信子 先生、一色 信宏先生 教務:荒井校長、川上、小堀	
中間審査会発表学生	建築設計デザイン学科 2年 6名	
プレゼンテーション実施日	2025年1月8日(水)9:00～12:00 本校6F プレゼンテーションルーム	
プレゼンテーション参加者	講師:中村 聖 先生、江ヶ崎 雅代先生、一色 信宏先生 教務:荒井校長、川上、小堀	
プレゼンテーション発表学生	建築設計デザイン学科 2年 6名 (6名発表した中から最終プレゼンテーション発表学生4名の選抜)	
審査会実施日	2025年2月15日(土)13:30～16:00 本校2F カフェ・ラウンジ	
審査会参加者	審査協力団体:茨城県における建築・建設5団体の代表者 茨城県建築士会代表 常務理事 高槻 一雄 様 茨城県建築士事務所協会代表 常務理事 鎌田 富士夫 様 日本建築家協会 関東甲信越支部 茨城地域会代表 会長 大山 早嗣 様 茨城県建設業協会代表 鈴木 勝彦 様 茨城インテリアコーディネーター協会代表 会長 棚井 政江 様 本校講師:建築設計デザイン学科・担当 10名参加 教育課程編成委員:水戸京成百貨店 橋本 人志様、アットワーク 清水 敏之様、エクラ 山本 貴広様、茨城県建築士事務所協会 理事 小川 憲一様 コムスペースデザイン 黒木 翔様、 学校関係者評価委員:水戸ステーション開発 取締役総務部長 丸山 久様、茨城インテリアコーディネーター協会 会長 棚井 政江 様 関根工務店 代表取締役 関根 貴雄 様、andHand建築設計事務所 代表取締役 飯島 洋省 様 根本建築設計事務所 阿久津 裕司 様 卒業生代表:杉山 凜 様(結いのほな)、大塚 麻菜美 様(有限会社コムスペースデザイン) 計2名参加	
受賞者	2年次修了制作部門 最優秀作品賞:木崎 歩波(きざき あゆな)「Whale Base」 茨城建設業協会賞:木崎 歩波(きざき あゆな)「Whale Base」	
代表プレゼンテーション実施日	2025年2月26日(水)14:00～16:00 常陸太田市商工会 大会議室	
代表プレゼンテーション参加者	提案団体:常陸太田市 副市長 田中 慈和様 連携団体:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川 仁一様、澤田 雄一様 合同会社ボットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様 鯨ヶ丘商店会会長・常陸太田市観光物産協会会長 渡辺 彰様 鯨ヶ丘商店会副会長 Sunny Sunday 小泉 正人様 常陸太田市商工会 事務局長 佐川 和広様 講師:藤田 直樹先生、雨川充宏先生、江ヶ崎 雅代先生、茂垣直樹先生 教務:渡邊本部長、荒井校長、川上、小堀 学生:建築設計デザイン学科2年 6名(建築設計デザイン学科1年 8名、建築設計デザイン学科3年 12名も参加)	
最終プレゼンテーション発表学生	丹家 祐輔、木崎 歩波、松永 健太、宮内 歩夢 選抜 4名	
受賞者	常陸太田市長賞:松永 健太(まつなが けんた)「沐香造 MOKUKOUZOU」	
作品展示期間・場所	修了制作展(2025年2月8日～15日)本校2F カフェ・ラウンジ	
成果の評価	・視察においては、団体担当者より常陸太田市鯨ヶ丘商店会の環境や特徴についてのレクチャーを受け、現状について詳しく知ることができた。また、10/27(日)にはCANVAS vol.7に参加しワークショップを行い、地元住民へアンケート調査を実施した。また、12/15(日)には12月倉に参加し、地域のイベントの取り組み方や街の魅力について学べた。そのイベントの中では、試作した家具を体験してもらうことで地元の方々とコミュニケーションも図れた。様々な意見を収集することができクライアントの理解が深まった。 ・中間審査会や選抜プレゼンテーションも快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただいた。(現状分析・問題発見) ・鯨ヶ丘商店会のくじら屋の新しい商業施設としての在り方を各々設定し、周辺施設との関連性を考慮しつつ、地域活性化を意識し専門店ならではのデザイン性を追求した計画を実践的に学ぶことができた。(問題解決) ・ショップデザイン実習では、店舗設計のコンセプトや具体的なプラン作成、インテリア造形Ⅱではプランをもとに試行錯誤と模型制作、インテリアCADⅡではパース作成、プレゼンテーションⅡではプレゼンテーションボードの作成と4つの授業で運動し、企画力・デザイン力・表現力を身に付けることができた(作品制作) ・家具デザインの授業でも、街とのつながりを考えた家具を提案することで、課題への取り組みをより掘り下げて進めることができた。また、実際に製作した家具を寄贈することができた(作品制作) ・中間審査会では、団体担当者に向けプレゼンテーションを行い、現在までの考えを発表・具体的な助言を頂く事で方向性の確認や不足している部分について補うことができた。また、デザインのプロセスを含めて自分の考えを伝えることができた。(プレゼンテーション) ・連携団体からの評価に「街と合うデザインである」、「コンセプトがしっかり練られていて、建築デザインに反映されていた」とのコメントを頂き、今回の課題設定が上手く学生の学習効果へと繋がる結果になった。(外部評価)	学修成果の評価 
反省点	・4つの授業が連動しているため、全体のスケジュールや方向性を教務・講師が共通理解して進める必要がある。 ・レクチャーや現地調査から現状の分析を行い、コンセプトやプランニングにかかる時間に個人差が出てしまい、最終的な作品の完成度にバラつきが出てしまった。 ・インテリア計画まで含めた課題制作のスケジュールを立て、内部(インテリアデザイン)にもこだわった課題制作を行う必要がある。 ・提案した店舗を実際に活用するイメージまでプレゼンテーションできると良い。	
外部作品展	第11回茨城学生建築展 会期:令和7年2月20日(木)～	主催:一般社団法人茨城県建築士事務所協会 作品公開:茨城県建築士事務所協会HP内「第11回茨城学生建築展」コーナー
外部作品展 出品者	木崎 歩波、松永 健太	選抜 2名(6名中)
受賞者	茨城新聞社賞:松永 健太(まつなが けんた)「沐香造 MOKUKOUZOU」	
教務対応担当	荒井校長・川上・小堀・相沢	

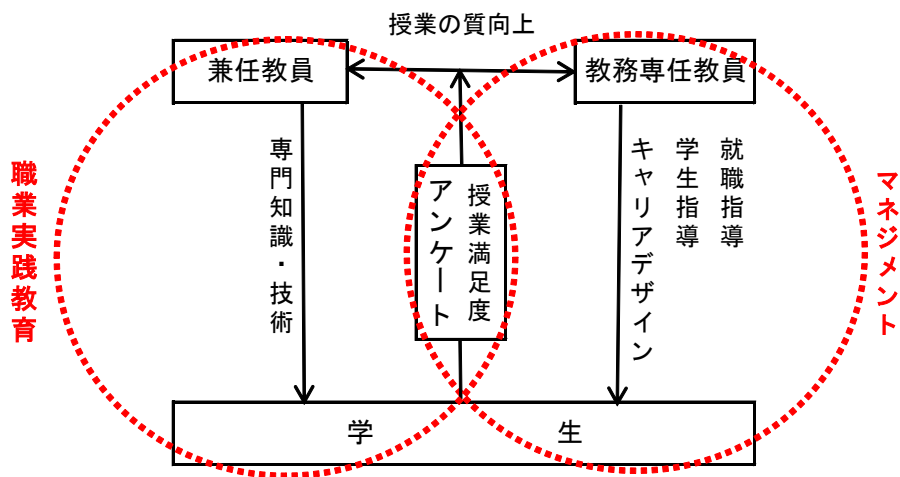
建築設計デザイン学科3年		
企業・団体等 連携課題 実施報告書		
2024年度 修了制作		
課題名	常陸太田市里美地区に旧酒蔵金波寒月を活用したコミュニティ施設の提案	
レクチャー・視察日	2024年5月12日(日)10:00～12:00 金波寒月	
レクチャー対応	連携団体:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川 仁一様 合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様	
レクチャー・視察参加者	講師:茂垣 直樹 先生 教務:荒井校長、川上、小堀 建築設計デザイン学科 3年 12名	
ワークショップ	2024年9月21日(土)「So-Chiku#8 竹ドームと竹ランタンづくり」旧酒蔵 金波寒月	
ワークショップ参加者	連携団体:合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様 建築設計デザイン学科3年 13名	
意見交換ワークショップ実施日 (中間報告)	2024年7月12日(金)10:00～12:00 文化デザイナー学院 6F プレゼンテーションルーム	
参加者	連携団体:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川 仁一様 合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様 講師:茂垣 直樹 先生 教務:荒井校長、川上、小堀	
発表学生	建築設計デザイン学科3年 12名	
中間審査	2024年11月12日(火)9:30～12:00 文化デザイナー学院 6F プレゼンテーションルーム	
参加者	連携団体:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川 仁一様 合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様 講師:茂垣 直樹 先生 教務:荒井校長、川上、小堀	
発表学生	建築設計デザイン学科3年 12名	
プレゼンテーション実施日	2025年1月10日(金)9:30～12:00 本校6F プレゼンテーションルーム	
プレゼンテーション参加者	講師:茂垣 直樹 先生、飯村 信子 先生、一色 信宏 先生 教務:荒井部長、川上、小堀	
プレゼンテーション発表学生	建築設計デザイン学科3年 12名 (12名発表した中から最終プレゼンテーション発表学生4名の選抜)	
審査会実施日	2025年2月15日(土)13:30～16:00 本校2F カフェ・ラウンジ	
審査会参加者	審査協力団体:茨城県における建築・建設5団体の代表者 茨城県建築士会代表 常務理事 高槻 一雄 様 茨城県建築士事務所協会代表 常務理事 鎌田 富士夫 様 日本建築家協会 関東甲信越支部 茨城地域会代表 会長 大山 早嗣 様 茨城県建設業協会代表 鈴木 勝彦 様 茨城インテリアコーディネーター協会代表 会長 棚井 政江 様 本校講師:建築設計デザイン学科・担当 10名参加 教育課程編成委員:水戸京成百貨店 橋本 人志様、アットワーク 清水 敏之様、エクラ 山本 貴広様、茨城県建築士事務所協会 理事 小川 憲一様 コムスペースデザイン 黒木 翔様、 学校関係者評価委員:水戸ステーション開発 取締役総務部長 丸山 久様、茨城インテリアコーディネーター協会 会長 棚井 政江 様 関根工務店 代表取締役 関根 貴雄 様、andHand建築設計事務所 代表取締役 飯島 洋省 様 根本建築設計事務所 阿久津 裕司 様 卒業生代表:杉山 凜 様(結いのほな)、大塚 麻菜美 様(有限会社コムスペースデザイン) 計2名参加	
受賞者	3年次修了制作部門 最優秀作品賞:石原 怜奈(いしはら れな)「つなぐ」 日本建築家協会 関東甲信越支部茨城地域会賞:石原 怜奈(いしはら れな)「つなぐ」 茨城県建築士会賞:坂本 吏玖(さかもと りく)「酒蔵の道～里美巡り、心をつなぐ旅～」	
最終プレゼンテーション実施日	2025年2月26日(水)14:00～16:00 常陸太田市商工会 大会議室	
最終プレゼンテーション参加者	提案団体:常陸太田市 副市長 田中 慈和様 連携団体:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川 仁一様、澤田 雄一様 合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎 靖様 鯨ヶ丘商店会会長・常陸太田市観光物産協会会長 渡辺 彰様 鯨ヶ丘商店会副会長 Sunny Sunday 小泉 正人様 常陸太田市商工会 事務局長 佐川 和広様 講師:藤田 直樹先生、雨川充宏先生、江ヶ崎 雅代先生、茂垣直樹先生 教務:渡邊本部長、荒井校長、川上、小堀 学生:建築設計デザイン学科3年 12名(建築設計デザイン学科1年 8名、建築設計デザイン学科2年 6名も参加)	
最終プレゼンテーション発表学生	石原 玲奈、進藤 由也、坂本 吏玖、佐藤 綾乃 選抜 4名(12名中)	
受賞者	常陸太田市長賞:坂本 吏玖(さかもと りく)「酒蔵の道～里美巡り、心をつなぐ旅～」	
作品展示期間・場所	修了制作展(2025年2月8日～15日)本校2F カフェ・ラウンジ	
成果の評価	・現地視察の機会としては、①5/12(日)にそば打ち体験、②6/15(土)に種まき体験、③8/23(金)に竹ドーム作りに参加。団体の地域活性化活動を実際に体験しながら知ることができ、地域の魅力を捉えることにもつながった。また、移住者と交流の時間もあり、今回の課題で想定するターゲットの一つについて理解を深めた。その他にも、④6/7(金)に現地調査を行い、団体担当者より常陸太田市里美地区や金波寒月の環境についてのレクチャーを受け、現状について詳しく知ることができた。また、意見交換や中間報告会、プレゼンテーションへの出席も快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただけた。 ・団体担当者との意見交換や折橋地域活性化プロジェクトチームの様々な活動やワークショップに参加させていただき、団体関係者や地域の方々との交流を行い、意見やアドバイスをいただき作品の方向性の確認ができた。またコミュニティデザインの重要性を認識することが出来た。(現状分析・問題発見) ・地域の魅力を捉え、金波寒月の魅力を活用した施設を計画し、地域活性化や地域との繋がりを意識した未来に繋がる提案をすることで、まちづくりや地域デザインを実践的に学ぶことが出来た。(問題解決) ・修了制作Ⅲでは施設のコンセプトや具体的なプラン作成、インテリア造形Ⅲではプランをもとに試行錯誤と模型制作、インテリアCADⅢではパース作成、プレゼンテーションⅢではプレゼンテーションボードの作成と4つの授業で運動し、企画力・デザイン力・表現力を身に付けることができた(作品制作) ・中間審査会では、団体担当者に向けプレゼンテーションを行い、現在までの考えを発表・具体的な助言を頂く事で方向性の確認や不足している部分について補うことができた。また、デザインのプロセスを含めて自分の考えを伝えることができた。(プレゼンテーション) ・連携団体からの評価に「建築デザイン、配置等のアイデアが素晴らしかった」「地元を外部をつなぐコンテンツが良かった」「実際にリノベーションしたい提案だった」とのコメントを頂き、今回の課題設定が上手く学生の学修効果へと繋がる結果になった。(外部評価)	学修成果の評価
反省点	・前期からレクチャーや現地調査を行い制作に取り組んできたが、個人差が出てしまい最終的な作品の完成度にバラつきが出てしまった。前期までに建築的な表現も発表できるように進めていく。 ・修了制作課題の概要は授業がはじまる頃には決めておきたい。授業を進める中で、変更が生ずる場合には対応していく。 ・グループワークで検討した敷地全体の利用方法を個人で取り組んだ金波寒月の活用とをもって関連付けた作品になると良かった。 ・最終学年としてふさわしいディティールにまで作り込んだ作品制作ができると良かった。	
外部作品展	第11回茨城学生建築展 主催:一般社団法人茨城県建築士事務所協会 会期:令和7年2月20日(木)～ 作品公開:茨城県建築士事務所協会HP内「第11回茨城学生建築展」コーナー	
外部作品展 出品者	石原 玲奈、進藤 由也、坂本 吏玖 選抜 3名(12名中)	
教務対応担当	荒井校長・川上・小堀・相沢	

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
インテリアデザイン実習	年間の総合進級課題。住空間のデザインを基本計画・設計製図、模型、パース、インテリア表現。	折橋地域活性化プロジェクトチーム 合同会社ポットラックフィールド里美 常陸太田市商工会
インテリアCADⅠ	ベクターワークスによる作図手順の解説と作図演習。3DCADにて立体表現を行う前の図面知識を修得する。	
ショップデザイン実習	商業施設を中心とした修了制作課題（ショップデザイン提案）コンセプト設定～各種図面、インテリア表現、プレゼンテーション技法。	常陸太田市鯨ヶ丘商店会 常陸太田市商工会
インテリアCADⅡ	ベクターワークスにより、実際にショップデザインを行う際の3Dパースを作成する。	
修了制作Ⅲ	今後の社会において、建築/インテリアの分野にて問題解決してデザインを使った提案力を身に付ける。	折橋地域活性化プロジェクトチーム 合同会社ポットラックフィールド里美 常陸太田市商工会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校は、下記図のように、実務に関する知識、技術、技能に関しては「プロの兼任教員」が教授し、学生に対する様々な指導、マネジメントに関しては教務専任教員が担当している。



デザインは、教科書的にまとめられる領域は少なく、実務実習型の授業がほとんどである。従って、授業を受け持つには、例えば、広告デザインの分野では、デザイン構成やDTP技術はグラフィックデザイナーが教え、カラーコーディネートはその有資格者が教え、Webデザインは、Webデザイナーが教えている。インテリアデザインの分野では、設計製図は一級建築士が教え、インテリアコーディネートはインテリアコーディネーターの有資格者が教え、3DCAD（3次元パース）は建築士の中でも、その技術を習得した者が教える。エクステリアデザインに関しては、造園業にも精通したプロが教えるという具合である。また、本校のファッションコーディネートは流通小売業の分野を学ぶもので、商品知識、接客、仕入れ、ディスプレイ、経理、はもとより、ネイルアート、フラワーコーディネート、ラッピング、雑貨・ファッション小物制作等、それぞれの専門的授業に対して、その分野のプロが授業を受け持つことが必要になる。専任教員が教えられる領域を、はるかに超える授業内容である。この様な観点から、本校は、ほとんどの授業においてその分野で活躍するプロの兼任教員が授業を担当し、学生の職業実践的能力を高めている。

また、教務専任教員は、学生指導・就職指導能力を高めるため、企業人事担当者を訪問し人材ニーズを把握するとともに、企画立案及び打合せを通して実践的な指導力を高めている。さらに、キャリアデザインを通してマインド教育や職業人育成に努めている。プロの兼任教員と教務専任教員が相乗的に教育指導に当たることにより、知識・技術・人材教育をトータルに行う職業教育が可能になっている。

上記の指導体制を基に、「職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能についての研修等」は、本校が重要視しているデザインのプロセスを教育するために、企業や行政にご協力を頂き教員が一堂に集まる教員会等で意思の疎通を図りながら組織的及び計画的に取り組み実施している。それぞれの担当する科目の視点よりレクチャーを受けられる機会になっている。「授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等」は、企業・外部講師・ハローワークにご協力頂き、組織的及び計画的に受講させるため、年間研修計画のスケジュールに基づき実施している。また、諸規定等では、年間研修計画により「職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能についての研修等」並びに、「授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等」が、教員に対し必ず受けなければならない研修となっている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

組織的に位置付けられた研修等の対象、内容、期間について、実務に関する研修等については、企業や行政等との連携を行う授業がメインとなる。内容は、インテリアデザインの分野においても、デザインのプロセスの部分が重要となる。昨年度の研修では先ず初めに、形を作る前に環境や風土を読み解くことが大切になるため現場より求められている内容を説明頂いた。次に、現実的な空間や機能が最終的な完成を見せる前に需要に沿った内容になっているのかを中間的なレクチャーを頂いた。最終的には、3Dパースや模型等を含む制作を行い相手に伝えるための表現方法を含めデザイン的な要素と機能的な要素を合わせたプレゼンテーションを実施し、その後にアドバイスを頂いた。期間については、半年間にわたり実施した。

「地域デザインについての研修」
・令和6年5月12日(日)10:00～12:00 金波寒月
講師:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川仁一様
合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎靖様

「地域デザインについての研修」
・令和6年8月27日(火)13:00～ 常陸太田市郷土資料館
講師:鯨ヶ丘商店会 副会長 Sunny sunday 小泉 正人様

「地域デザインについての研修」
・令和6年9月8日(日)9:00～ 金波寒月
講師:折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川仁一様
合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎靖様

②指導力の修得・向上のための研修等
生徒に対する指導力等については、キャリアデザインに関連する授業が該当する。就職の指導を行うためには企業の事・マナー・履歴書等の描き方・ポートフォリオ(作品集)の制作など多岐にわたる。昨年度の研修では、6月にマナー講座・業界を代表する方をお呼びして業界について講話・8月にハローワークから今の求人情報や施設の利用方法などのレクチャーを実施している。

「企業が求める人材像・企業の就職状況の研修」
・令和6年6月6日 13:30～15:00
講師：株式会社 根子左 代表取締役 豊田一雄様

「自己分析と就職活動においてのビジネスマナーや言葉遣いについての研修」
・令和6年6月17日 14:40～16:10
講師：キャリアコンサルタント 橋本秀則様

「今般の求人状況と就職活動方法の研修」
・令和6年8月23日 10:00～11:30
講師：水戸新卒応援ハローワーク 田端夏絵様/青田目ゆかり様

「教えない教育」
・令和6年9月20日 14:00～16:00 文化デザイナー学院 講師会
講師：株式会社リクルート Division統括本部 まなび進学情報Division 地域活性営業部 北関東グループ 野原大五様

「環境設計のケーススタディ ～定量的評価からの意匠アプローチ～」□
・令和7年1月31日 17:30～19:15 日本建築学会関東支部茨城支所 環境セミナー
講師：株式会社 明野設備研究所 執行役員 松田真明様

「AI時代に求められるのは、独自の視点と意思決定力」
・令和7年3月24日 14:00～16:00 文化デザイナー学院 講師会
講師：株式会社リクルート Division統括本部 まなび進学情報Division 地域活性営業部 北関東グループ 野原大五様

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等
学校が年度当初に教務会議にて年間研修計画を立案し、その後に企業及び行政とデザインとの関連性について協議を重ね、研修等についての時期と内容を講師の授業計画に合わせ調整し決定する。

「地域デザインについての研修」
・令和6年5月12日(日)10:00～12:00 金波寒月
講師：折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川仁一様
合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎靖様

「地域デザインについての研修」
・令和6年8月27日(火)13:00～ 常陸太田市郷土資料館
講師：鯨ヶ丘商店会 副会長 Sunny sunday 小泉 正人様

「地域デザインについての研修」
・令和6年9月8日(日)9:00～ 金波寒月
講師：折橋地域活性化プロジェクトチーム 代表 助川仁一様
合同会社ポットラックフィールド里美 代表社員 岡崎靖様

②指導力の修得・向上のための研修等
学校で決められた年間研修計画に合わせて、担当がキャリアデザインとの関連性について各施設や企業と調整を行う。それぞれの研修等には企画書を作成し目的を明確にさせ実施している。学校ではその様な研修等を行う際には、必ず企画書の読み合わせを行い、関係するすべての職員が内容を把握している。

「企業が求める人材像・企業の就職状況の研修」
・令和6年6月6日 13:30～15:00
講師：株式会社 根子左 代表取締役 豊田一雄様

「自己分析と就職活動においてのビジネスマナーや言葉遣いについての研修」
・令和6年6月17日 14:40～16:10
講師：キャリアコンサルタント 橋本秀則様

「今般の求人状況と就職活動方法の研修」
・令和6年8月23日 10:00～11:30
講師：水戸新卒応援ハローワーク 田端夏絵様/青田目ゆかり様

「教えない教育」
・令和6年9月20日 14:00～16:00 文化デザイナー学院 講師会
講師：株式会社リクルート Division統括本部 まなび進学情報Division 地域活性営業部 北関東グループ 野原大五様

「環境設計のケーススタディ ～定量的評価からの意匠アプローチ～」□
・令和7年1月31日 17:30～19:15 日本建築学会関東支部茨城支所 環境セミナー
講師：株式会社 明野設備研究所 執行役員 松田真明様

「AI時代に求められるのは、独自の視点と意思決定力」
・令和7年3月24日 14:00～16:00 文化デザイナー学院 講師会
講師：株式会社リクルート Division統括本部 まなび進学情報Division 地域活性営業部 北関東グループ 野原大五様

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針 本校は、「専門学校における学校評価ガイドライン（平成25年度文部科学省策定）」を踏まえ、学校教育活動や学校運営の状況について企業や業界の役員又は職員並びに卒業生の方に参画頂き、自己評価の結果を評価することを基本として、学校関係者評価の実施及び公表を行い、教育活動や学校運営の改善に取り組むことを基本方針とする。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	I 教育理念 II 教育目標 III 教育方針 IV 年度目標
(2)学校運営	I 学校運営の方針 II 授業計画 III 学校組織のありかた IV 意志決定のプロセス V 業務の効率化
(3)教育活動	I 学科編成における全学科を通しての共通な特徴 II 各学科の概要 III カリキュラム IV 単位認定・成績評価の考え方 V 資格取得・国家資格に向けた授業 VI 業界との協力体制 VII 企業・団体等連携授業 VIII 業界からの授業成果に関する協力 IX 修了制作展 作品の展示 X 実践的な職業教育（インターンシップ）
(4)学修成果	I 就職指導の全体方針 II 就職目標設定と2024年度報告 III 就職に対する本校の特徴 IV 就職指導体制
(5)学生支援	I 学生支援体制
(6)教育環境	I 施設・設備状況 II 防災・災害に対する対応 III 保険の加入
(7)学生の受入れ募集	I 募集の動き II 広報媒体 III 募集体制 IV 学費
(8)財務	I 財務
(9)法令等の遵守	I 個人情報の保護 II 学校自己点検・自己評価 III 学生作品と著作権の問題
(10)社会貢献・地域貢献	I 企業・団体等連携の成果 II 企業・団体等連携の一覧
(11)国際交流	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)学校関係者評価結果の活用状況	
2024年度 学校関係者評価結果の活用状況	
学校関係者評価委員会等の意見	活用状況
◆意見項目 評価基準1 教育理念・目的	◆随時対応 対象：キャリアアップデザイン学科 授業：
①(関根委員)キャリアアップデザイン学科も含め、学生や保護者にも学校の理念・将来構想が周知徹底出来れば更にいいと感じた。	①学生達にはキャリアアップデザイン学科の存在を計画的に連絡している。学校からだけの連絡だけではなく実際に授業を担当する講師の先生からも、キャリアアップデザイン学科の特徴や学ぶ利点などについて講義を行う時間も設けている。それに加えて、興味を持った学生には授業に参加できるシステムを用意しており、授業を体験出来て選択しやすい状況を作っている。 保護者に対しては入学か前から説明を行っており、キャリアアップデザイン学科があることをお知らせしている。キャリアアップデザイン学科の進学を検討する説明会の際には、保護者の方も同席することが可能であり、学生と共に理解をして真剣に考えられる機会を設けている。
	◆随時対応 対象：全学科全学年 授業：
	①学生に対しては、2024年度からの生成AIに関する考え方を始業式やオリエンテーションで示した。保護者に対しては、保護者説明会と毎年2月の修了制作展が学校の活動を把握できる機会になっている。学校の教育姿勢や活動内容を広く周知できる機会なので、指導には力を入れていきたい。
◆意見項目 評価基準2 学校運営	◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：
②(関根委員)年々コンプライアンスに対して世の中の目が厳しくなっているので、十分気を付けてほしい。	②情報が容易に発信・拡散される時代であり、職員・学生・講師には、社会人・企業人としての情報モラルやあるべき姿を理解し行動することがますます大事だと感じている。情報教育や倫理教育の機会を設けることも検討していきたい。
③(飯島委員)建築設計デザイン学科の魅力発掘、PR、カリキュラムと学生数がリンクするような結果に繋がる活動になると良いと思う。	③魅力作りに関してはものづくり系の授業を取り入れ、他校にない特徴になってきている。カリキュラムに関しても3年間教育で修了制作をはじめとする地域連携による実践的な学びと資格対策講座を設け専門学校として業界のニーズに応える内容になっていると外部評価、自己評価ともに考えている。PRに関しては、競合校の実績が強く、高校生・保護者・高校教員の視点でどの部分が魅力になっていて、どの部分が弱みなのか見定めて方向性を調整することが学生数につながってくると思う。土浦工業高校の進路指導部兼建築学科の先生と面談し、本校の教育内容や就職実績、企業とのつながり等を説明する機会を設けた。
◆意見項目 評価基準3 教育活動	◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年講師 授業：
④(岡田委員)AI等、技術の進歩が早いので、学生のうちに慣れておくと受け入れる会社も大きなメリットがあると思う。講師会や講師の入れ替えによって教える側のレベルアップが図られている。また、データを作る際、印刷会社へ出稿する際の注意点を授業で説明していた。実際の仕事を想定した授業になっている。	④専門学校としては、卒業後の業界ニーズを迅速にキャッチしカリキュラムに反映することが求められる。AIの技術に関しては、これまでの職業の在り方に関しても大きな変化があることが推察されるものであり、技術の理解を図るために講師会にて研修会を実施した。さらに学生指導や授業の中でどのように扱っていくかについても、講師を対象に研修を実施する予定であり、教える側のスキルアップが求められると捉えている。実務に即した授業を行うことは、職業教育を行う上では重要である。全てを網羅することは難しい部分もあるので、大事なことを抑えられるよう運営を行っていく必要がある。
⑤(竹越委員)現役で仕事をしている講師だからこそ、時代に合った授業内容で良いと感じた。最先端の技術は現場よりむしろ学校の方が早いのではないかと感じる事さえる。また、WEBデザインの授業はコーディング、フロントエンドではなく、デザインの方でXDとかFigma等アプリの使い方などもっと充実しても良いのではないかと考えた。	⑤本校の教育的な魅力でもあり、対外的にも特徴となっていることは、ほとんどの講師が現役のプロクリエイターであることである。広報段階から考えると常に5年、10年先を見込んでカリキュラムを構築し、学生募集していかななくてはならない。プロ講師とは、モチベーションの高め方や学生の価値観を理解するための研修を実施し、教えることが初めてであることが多い講師にも対応している。WEBデザインの学習内容については時代の変化に合わせて定期的に見直しを行っていて、Adobe Dreamweaverをアプリケーションとして使用している。Adobe CCIにバージョンアップ後は、XDを自主的に使っている学生もいるため、適宜見直しをしていきたい。
⑥(関根委員)生成AIなど世の中の時代の変化が本当に早くなっている。環境の変化には迅速に対応出来るようにすることも重要になってくる。	⑥⑦新しい技術の取捨選択は難しい部分でもあるので、業界からの情報収集は大切である。学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会をはじめ、求人企業や業界団体との情報交換の機会は大切にしていきたい。
⑦(阿久津委員)建築業界もAIが工作上必要になってくる時代になるので、使い方を学ぶ事は良い。	⑧資料では教職員に対する研修会の記録が中心となっているため、研修内容に関する資料を提示するなど検討していきたい。
⑧(飯島委員)各学科の教員の人材育成の内容については資料だけでは見えにくい部分もあると感じた。キャリアアップデザイン学科についても同じことが言える。	◆引き続き対応 対象：キャリアアップデザイン学科講師 授業：
	⑧職業分野における実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修を計画し実施しているが、それに加えキャリアアップデザイン学科の講師は、常に新しい情報を手に入れる状況にいる。お一人は常陸フロッグスという団体に所属しており、フロッグスの運営母体との連携より研修活動を実施している。もう一人の講師は、茨城未来デザインプロジェクトif design projectにも参加しており、地域の活動に積極的に参加すると共に地域を資源とした業務を行っている。キャリアアップデザイン学科の講師は、多くの地域で活躍する方々と接点を持っているのをそれを応援してくれる全国の協力者より、様々な情報を手に入れられる状況の方が揃っている。

◆意見項目 評価基準4 修学成果 ⑨(岡田委員)同窓会を4年に一度開催し、卒業生とのコミュニケーションを図っている。授業へのアンケート等、卒業生から意見を集めると社会に出てから感じたギャップや伸ばした方が良い内容などが分かるかもしれない。 ⑩(竹越委員)同窓会など卒業生の交流をする場、卒業後の活動を知る場がある事がとても良い。 ⑪(関根委員)自己アピール力、相手に伝える力をアップさせる事が出来れば、学生にとって就職してからも有利になると思う。 ⑫(飯島委員)普段は元気なのかもしれないが、学生の少し大人しく控えめな印象を受けた。	◆引き続き対応 対象:学校運営・全学科全学年 授業: ⑨⑩卒業生との接点として継続的に行っていた同窓会は情報交換の場となっており、貴重な機会である。4年に一度のタイミングとしているが、水戸まちなかフェスティバルがコロナ明けに再び開催されたことに伴い、毎年開催を検討している。また、卒業後の状況調査をすることで、カリキュラムの見直しや学校運営の改善点を見つけることにつながる可能性もあり、今後の内容を検討していきたい。 ⑪⑫インターネット上のつながりが友達だったり、対面のリアルな関係以外の人間関係が成立している学生の世代は、仲間意識、身内意識が強く一見すると大人しい印象に見えるかもしれない。就職活動の場面では、競争の中で自分をPRすることが求められる。しっかりと自分を伝えるためにも自分を理解することが大切であり、自己発見プログラムを通して、自己アピール力のアップも目指していきたい。
◆意見項目 評価基準5 学生支援 ⑬(阿久津委員)就職後の企業から離職者が少なくなるように声かけなどがあると、新卒でも在職している社会人でも就職先の企業への印象が良いと思う。	◆継続的に対応 対象:学校運営・全学科全学年 授業: ⑬企業にとっては、新卒者を雇用する上でのリスクが早期離職であると考え。学校としても同窓会の開催周期を見直すなどして、卒業生との接点を増やすことができると、卒業後のサポートしやすくなるかもしれないし、企業側の安心にもつながると感じる。
	◆継続的に対応 対象:キャリアアップデザイン学科 授業: ⑬キャリアアップデザイン学科の実習先を依頼する際に企業や団体に何うが、授業内容などを説明すると内容に理解を示して頂き、連携事業に繋がる事が殆どである。更に企業においては、人材不足の問題を抱えている企業が殆どであり、連携の話しを伝えに行った企業もそれに漏れず同じ問題を抱えていると、その様な事を学んでいる学生がまさしく会社に欲しい人材であり、在学学生は就職が決まっているのかと聞かれることが多いので、学校としてはその様な話を預かり学生に伝えることが可能な状況になっている。学生のやりたい業務とマッチしているのであれば、好待遇で就職をすることが可能である。
◆意見項目 評価基準6 教育環境 ⑭(竹越委員)教室数も増え、授業もしやすくなったのではないだろうか。 ⑮(飯島委員)創作活動を触発するような施設環境整備をもう一押しあっても良いかと感じた。	◆継続的に対応 対象:学校 授業: ⑭⑮近年の在籍学生数の増加とともに、授業の内容が充実すればするほど学科や人数により多様なニーズが生まれ、喜ばしいことだが教室環境の点からすると運営が難しい状況でもある。学内でできることの最善を考えつつ、学内の環境もうまく利用しつつ改善を試みていきたい。DIYで給排水設備のある作業室を改修している。今後も徐々に進める。
◆意見項目 評価基準7 学生の受け入れ募集 ⑯(竹越委員)入学者が増えてる事が素晴らしい事だと思う。	◆継続的に対応 対象:学校 授業: ⑯学生募集は毎年状況が変化するので、高校訪問、体験入学会をはじめとする様々な広報活動を着実に継続しつつ、高校生の状況にはアンテナを張り状況の変化を敏感に察知していきたい。
◆意見項目 評価基準8 財務	◆ 対象: 授業:
委員意見なし	
◆意見項目 評価基準9 法令等の遵守 ⑰(岡田委員)著作権等、年々難しく重要な問題になっていると思うので、オンライン学習後にレポート提出があるとのことだが、理解度についての後追いも重要になると思う。 ⑱(竹越委員)ホームページがSSL化されて良かったと思う。 ⑲(関根委員)個人情報保護と著作権は将来就職してから重要になるので、継続して教えてほしい。 ⑳(阿久津委員)個人を守るための著作権を学ぶ機会があるのは良い。	◆継続的に対応 対象:全学科全学年 授業: ⑰⑱㉑AI技術の進歩と社会への浸透に伴い、著作権や個人情報の取扱いに関しては、身に付けるべき知識が変わってくると思う。知識としての理解度を確認することや、実際に著作物や個人情報を授業の内外、就職後の仕事で適切に扱える実務的な能力も求められるため検討していきたい。
◆意見項目 評価基準10 社会貢献・地域貢献 ㉑(竹越委員)地元の企業だけでなく、ラフォーレ原宿など都内の企業からも声がかかるのは学生にとっても良い刺激になると思う。 ㉒(阿久津委員)水戸市のイベントに参加して地域と連携が取れ、水戸のまちなかに必要な学校となっていると感じた。	◆継続的に対応 対象:学校 授業: ㉑学校としても学生の学びの場が地元にとどまらず、東京に広がったことは嬉しく思う。カリキュラムの調整や人的負担も考慮する必要があるため、学習効果につながるよう継続していきたい。 ㉒街との連携はまちなかの学校として、社会貢献の意味も含めて適切に図っていきたい。コロナ明け以降、様々なイベントが企画されている。ボランティアを推奨し様々な活動を通して学生の成長につながることは喜ばしいことである。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
近藤 哲生	茨城県中小企業団体中央会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界団体
岡田 寛和	株式会社光和印刷	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
竹越 萌野	アセビデザイン	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
羽持 舞	my-design	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
丸山 久	水戸ステーション開発株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
住谷 強生	株式会社ジェイディーアールスミヤ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
鈴木 香織	株式会社フクダ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
高松 啓士	有限会社メイクス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
中村 理香子	有限会社中村写真館	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
棚井 政江	茨城インテリアコーディネーター協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界団体
関根 貴雄	株式会社関根工務店	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
阿久津 裕司	株式会社根本建築設計事務所	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
飯島 洋省	株式会社andHAND建築設計事務所	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()) ・ 令和7年7月31日

URL: www.bunka-gakuen.ac.jp

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、基礎的情報をはじめ、本校の特色、教育活動の状況やその成果・実績、また学校運営の状況に関する情報を積極的に企業等関係者に提供することを通し、本校教育の意義・役割等に対する理解を深め、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、業界のニーズを踏まえた人材育成に向けての教育内容のさらなる充実に取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	I 学校の教育・人材の育成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 II 校長名、所在地、連絡先等 III 学校沿革、歴史 IV その他諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	I 広告プロモーションデザイン学科 II ファッションビジネス学科 III 建築設計デザイン学科 IV キャリアアップデザイン学科
(3)教職員	I 教職員数 II 教職員の組織 III 教員の専門性 兼任講師一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	I キャリア教育・就職支援への取組状況 II 実践的職業教育 実習・実技等の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況と課外活動 II 教育環境について
(6)学生の生活支援	I 学生支援の取組状況
(7)学生納付金・修学支援	I 学生納付金 II 奨学金について
(8)学校の財務	I 監査報告書 II 貸借対照表 III 収支計画書
(9)学校評価	I 自己評価・学校関係者評価の結果 II 評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	I 国際交流 II 留学生の受入れ（出願資格・出願書類）
(11)その他	I 学則 II リリーアカデミーグループに関する情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:www.bunka-gakuen.ac.jp

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程建築設計デザイン学科) 2024年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			インテリアデザイン入門	内装で扱う建材や照明器具、壁紙、家具などに関する知識を身につけ、快適な空間を提案する力を養う。また、インテリアコーディネーターの資格にも活かす。	1通	60	4	○			○			○		
○			スペースデザインⅠ	敷地の選定、構造寸法、住宅の形式と計画、住宅一般の間取りと平面計画。	1前	30	2	○			○			○		
○			プレゼンテーションⅠ	カラーボード、デッサンなど基礎的な観察力・発想力を高め、作品のまとめ方とプレゼンテーション力をつける。	1前	60	2		○		○			○		
○			インテリア造形Ⅰ	平面図の立体スケッチ法（展開・立面・パース）を学び建築模型制作の基礎実習。	1前	60	2		○		○			○		
○			インテリアカラー	カラーの基礎知識を学ぶと共に、色彩・明度・彩度など色の特性、イメージのカラープランニング力を修得する。	1前	30	2	○			○			○		
○			インテリアデザイン実習	建築と生活に関わる寸法を把握する。そして、建築空間を考える技法を習得する上では室内気候や環境、換気や採光・照明も含め、各種建築物の研究・リサーチ（目的・用途・デザイン・構造等）を建築史より学ぶ。	1前	60	4	○			○			○		
○			建築インテリア研究	空間をデザインする上で必要な建築/インテリア環境設定を理解するために、歴史的背景や様々な事例を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○		
○			インテリアデザイン製図Ⅰ	図面の機能や読み方から線一本を引く練習から始まり、平面図・展開図・立面図等の作図。	1前	60	2		○		○			○		
○			建築インテリア材料	各種材料の力学的な強度、木材、石材、セメント、コンクリート、金属、塗料等の性質と用途。	1前	30	2	○			○			○		
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程建築設計デザイン学科) 2024年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			建築インテリア構造Ⅰ	一般構造となる、荷重・外力、構造計画、地盤・基礎、木造、鉄筋コンクリート造、壁式構造、鉄骨造、その他の構造について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○		
○			インテリア設備	換気・空調・給排水・電気・照明等・各種建築設備の機能。時代のニーズに応えられるインテリア住宅機器の商品知識を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○		
○			インテリアCADⅠ	ベクターワークスによる作図手順の解説と作図演習。3DCADにて立体表現を行う前の図面知識を修得する。	1後	60	2		○	△	○	○		○	○	
○			インテリアデザイン実習	年間の総合進級課題。住空間のデザインを基本計画・設計製図、模型、パース、インテリア表現。	1後	60	2		○	△	○	○		○	○	
○			プレゼンテーションⅠ	実際に空間のデザインを行いながら、相手に考えを表現として伝える方法を学ぶ。	1後	60	2		○	△	○	○		○	○	
○			インテリアカラー特講	A・F・T色彩検定の資格取得を目指す。資格取得対応の授業内容となっている。	1後	30	2	○			○			○		
○			DIY	限られた空間の中で、生活を豊かにする工夫を創作により考えられる思考を学ぶ。	1後	60	2		○		○			○		
○			雑貨デザイン	生活するうえで必要な生活雑貨を制作する事により、生活雑貨の使われ方から住空間や家具の寸法を導き出す。	1後	60	2		○		○			○		
○			インテリア造形Ⅰ	イメージした空間に合わせてインテリア模型を作れるようになり、表現力の高い制作技術を身に付ける。	1後	60	2		○	△	○	○		○	○	
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程建築設計デザイン学科) 2024年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インテリアデザイン製図Ⅰ	居住施設の配置、平面、断面、展開、かなばかり、各部詳細、仕上げ表等の作図。	1後	60	2		○		○			○	
○			はじめよう建築法規	二級建築士受験にも使用する建築基準法令集の対策準備。	1前			○			○		○		
○			キャリアデザインⅠ	自己のアイデンティティを再確認し、将来の専門分野での適性を考える。	1通	60	4	○			○		○		
合計					科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程建築設計デザイン学科) 2024年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			DIY	実際に存在する空間で、求められるライフスタイルを送れる空間をデザインして制作する。	2前	60	2		○		○				○	
○			プレゼンテーションⅡ	Adobeのイラストレーターとフォトショップを使い、ショップディスプレイ&インテリアを表現する為のデザインソフトの表現力を身に付ける	2前	60	2		○		○				○	
○			インテリアCADⅡ	ベクターワークスによるインテリアデザインの3D表現。外観・内観パースを作成する事を学ぶ。	2前	60	2		○		○				○	
○			インテリア法規Ⅰ	建築物を設計する上で必要とされる建築基準法及び関係法令の知識。	2前	30	2	○			○				○	
○			インテリアデザイン製図Ⅱ	R C造/S造の配置、平面、断面、展開、かなばかり、各部詳細、仕上げ表等の作図。	2前	30	1		○		○				○	
○			建築インテリア構造Ⅱ	一般構造となる、荷重・外力、構造計画、地盤・基礎、木造、鉄筋コンクリート造、壁式構造、鉄骨造、その他の構造について学ぶ。	2前	30	2	○			○				○	
○			雑貨デザイン	空間に必要なとなる雑貨を考え制作することにより、生活のバリエーションを増やせる雑貨を提案する力を身に付ける。	2前	60	2		○		○				○	
○			ICまとめ	インテリアコーディネーター資格一次試験に向けた内容で、総合的に試験範囲内をまとめる授業。	2前	60	4	○			○				○	
○			ショップデザイン論	歴史的ショップデザインの研究。建築空間の表現要素、目的と効果、つくる要素を学び、商業施設の計画方法を学ぶ。	2前	60	4	○			○				○	
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程建築設計デザイン学科) 2024年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ガーデンデザイン	近年のライフスタイルに合わせたガーデンデザインを実習を通して学び、建築との関連性を身に付ける。	2後	60	2		○		○			○	
○			インテリア造形Ⅱ	設計図に基づく建築模型の製作技法と、プレゼンテーションの表現方法。インテリアの制作技術も学び空間にリアル感を与える。	2後	60	2		○	△	○	○		○	○
○			インテリアCADⅡ	ベクターワークスにより、実際にショップデザインを行う際の3Dパースを作成する。	2後	60	2		○	△	○	○		○	○
○			プレゼンテーションⅡ	Adobeのイラストレーター・フォトショップを使い、実際にショップデザインを表現する。3Dパースに付加価値をもたらす技術を身に付ける。	2後	60	2		○	△	○	○		○	○
○			インテリアデザイン製図Ⅱ	二級建築士の受験もできる製図力を身に付けられる実践的な製図実習。	2後	30	1		○		○			○	
○			家具デザイン	生活様式と家具の歴史、各種家具の構造把握からデザイン設計図。住空間における家具の存在と配置の仕方を学ぶ。	2後	60	2		○		○			○	
○			ICまとめ	インテリアコーディネーター資格二次試験に向けた内容で、プレゼンテーション・論文の対策授業を行う。	2後	60	4	○			○			○	
○			ショップデザイン実習	商業施設を中心とした修了制作課題(ショップデザイン提案)コンセプト設定～各種図面、インテリア表現、プレゼンテーション技法。	2後	60	2		○	△	○	○		○	○
○			キャリアデザインⅡ	社会の中でのアイデンティティを再発見し、将来の専門分野の進路への手がかりを得る。	2通	60	4	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程建築設計デザイン学科) 2024年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プレゼンテーションⅢ	見る人が好感を覚えるような空間を提案できると共に技術的な表現力を身に付ける。	3通	120	4		○	△	○	○		○	○
○			ガーデンデザイン	クライアントの要望に合わせて、ガーデンデザインの提案とそれに沿った植栽や草花を選び、付随する工作も含め制作する。	3前	60	2		○		○			○	
○			インテリアCADⅢ	提案する空間を、よりリアルな3Dパースにて環境も含めて表現する力を身に付ける。	3通	120	4		○	△	○	○		○	○
○			福祉住環境コーディネーター対策講座	福祉住環境コーディネーター受験に合わせ、住宅設計上必要な、介護・医療・福祉の知識・バリアフリー住宅の計画。提案・リフォームについて学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
○			インテリア法規Ⅱ	建築物を設計する上で必要とされる建築基準法及び関係法令の知識。また二級建築士の受験範囲も網羅している。	3前	30	2	○			○			○	
○			構造デザインⅠ	基本的な構造や計算の仕方などを解法。力のつりあい、反力、応力について理解を深める。	3前	30	2	○			○			○	
○			コミュニティデザイン	現存する空間の中で、問題点を見つけ出し、デザインの力で解決する方法を学ぶ。	3前	60	4	○		△	○	○		○	○
○			家具デザイン	家具があるからこそ生まれる空間の提案ができるように、イメージに合わせた家具を制作する。	3前	60	2		○		○			○	
	○		ICまとめ	インテリアコーディネーター資格試験に向けた内容で、総合的に試験範囲内をまとめる授業。	3前	60	4	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で2つ以上履修する事	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程建築設計デザイン学科) 2024年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		インターンシップ	就業体験を通じて、仕事や企業、業界、社会への理解を深める。	3前	60	2			○		○	○			
○			インテリアデザイン施工	建築施工の契約・計画・管理についてと、施工機器・器具及び積算・見積りについて学ぶ。	3後	30	2	○			○			○		
○			構造デザインⅡ	反力、応力を理解した上で、トラスの断面の性質、座屈、応力度について理解する。	3後	30	2	○			○			○		
○			修了制作Ⅲ	今後の社会において、建築/インテリアの分野にて問題解決してデザインを使った提案力を身に付ける。	3後	60	2		○	△	○	○		○	○	
○			office実践	Microsoft office Excel、Word、PowerPointは必須スキルである。基礎から学び、社会人として必要な技術を身に付ける。	3後	30	2	○			○			○		
○			インテリア造形Ⅲ	住む人、使う人の事を考え、細部に至るまで造形的な表現にこだわりを持って作るための技術を身に付ける。	3後	60	2		○	△	○	○		○	○	
○			建築インテリア材料実験	コンクリートの性質を理解し、実際にコンクリートを作り、破壊する実験をする。鉄筋については引っ張り実験を行う。	3後	45	1			○		○		○		
	○		ICまとめ	インテリアコーディネーター資格二次試験に向けた内容で、プレゼンテーション・論文の対策授業を行う。	3後	60	4	○			○			○		
	○		インターンシップ	就業体験を通じて、仕事や企業、業界、社会への理解を深める。	3後	60	2			○		○	○			
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で2つ以上履修する事	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程建築設計デザイン学科) 2024年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職活動日	ポートフォリオの作成、企業研究、企業見学、インターンシップ等、就職に向けての活動を通して社会人になる自覚と責任感を養う。	3通			○			○		○		
○			キャリアデザインⅢ	学び身に付けたことを将来どう活かしていくかを確認し行動していく。	3通	60	4	○			○		○		
合計						59科目			3015単位時間(135単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。